二　汪兆銘工作と日華基本条約の締結

1　汪兆銘の重慶離脱

402
昭和13年12月22日　在香港田尻総領事より有田外務大臣宛（電報）

汪兆銘が重慶から離脱したとの報道について

香　港　12月22日後発
本　省　12月22日夜着

第一六六四號

二十二日工商日報ハ二十一日上海發「トランス、オーシアン」トシテ汪兆銘ハ蔣介石ノ意ヲ受ケ子息同伴赴歐スヘシト報道セルカタ刊紙「チヤイナ、メイル」ハ「汪ノ奇怪ナル旅行」ナル大見出ヲ附シ同人ハ十八日飛行機ニテ重慶發昆明經由ニテ二十日河内ニ到着更ニ當地ニ來リタリトノ噂專ラナルカ確實ナラス汪ノ使命ニ關シテハ蔣ノ命ニ依リ歐洲ニ赴クトモ又國策ニ關シ蔣ト意見ヲ異ニシタル爲重慶ヲ去リタリトモ傳ヘラレ政界ニテハ興味ヲ以テ注視シ居ル旨報道シ居レリ
上海へ轉電セリ

403
昭和13年12月23日　在上海後藤総領事代理より有田外務大臣宛（電報）

汪兆銘の重慶離脱に関する土肥原中将内話

上　海　12月23日後発
本　省　12月23日夜着

第三七八七號（極祕）

土肥原中將ノ森島參事官ニ對スル内話ニ依レハ汪精衞ハ各地ニ於テ講演ヲ爲ス名目ヲ以テ重慶ヲ脫出シタルカ右ハ特別委員會側ノ工作ニ呼應セルモノナルコト確實ナル由ナリ
北京、南京、香港へ轉電セリ

404
昭和13年12月23日　在香港田尻総領事より有田外務大臣宛（電報）

汪兆銘のハノイ到着は確実につき新事態に対応するため雲南鉄道爆撃の時期を再検討すべき旨具申

香　港　12月23日夜発
本　省　12月23日夜着

第一六七四號（極祕、館長符號）

次官、大臣ヘノミ配布アリ度シ

汪精衞ガ河內迄出馬セルコトハ確實ト認メラルル處廿一日高宗武ト內密會見セル際（今井中佐同席ス委細ハ軍側ヨリ御聽取濟ノコトト存ズ）高ハ汪ノ今後ノ行動ハ近ク來香ノ上決定スベキモ今迄ノ處昆明ニ引返シ旗揚ゲスル考ニテ龍雲トハ完全ナル了解アル旨申居ル一方佛印經由雲南ヘノ武器輸入ハ近來相當減少セルヤノ情報モアリ（今後ハ廣西ヲ通ズルモノ及緬甸公路ガ中心トナルベキ見込）就テハ鐵道ノ爆破問題ハ果シテ之ニ依リ惹起サルベキ摩擦以上ノ利益アリヤ前記ノ如ク局面ガ展開スルモノトセバ本鐵道ヲ開キ置クコトガ有利ナラズヤトノ新ナル見地ヨリ少クトモ其ノ時期ニ付研究ヲ要スルモノト存ズ卑見御參考迄今井承知濟

（付箋一）
（付箋二）

（付箋一）

岡軍務局第一課長ノ談（一二、二四）　土田

㈠雲南鐵道爆撃ニ付テハ本月十二日出先ニ對シ一週間實行差控方電訓シ次デ十八日再度電訓シ當分ノ間差控フルコトトナリ居リ從テ中央ヨリ訓令セザル限リ實行ニ移ルコトナシ（此點軍令ニ付絕對極祕）

㈡香港ニ對シテハ「外務省ニテ必要トセラルル限リ爆撃ハ實行セズシテ待ツベシ」トノ趣旨申送リ差支ナシ

（付箋二）

東亞局長ヘ

海軍側ヘ聯絡ノ件御願ス

405

昭和13年12月24日　有田外務大臣より在香港田尻總領事宛（電報）

重慶離脱後の汪兆銘と蔣介石との関係等につき意見回示方訓令

本　省　12月24日後9時20分発

（館長符號、極祕）

貴電第一六七四號ニ關シ

後段ノ件海軍側ニ連絡シ置ケリ尙昆明旗擧ハ例ノ筋書ニモ顧ミ不審ニ感ゼラルル所ナルガ諸情報ヲ綜合スルニ蔣トノ間ニ一脈相通ズルモノアルヤニモ思考セラルルニ付結局蔣

ノ爲ニ雲南鐵道ヲ確保シヤル結果トモナル虞ナシトセザルベク此邊ニ對スル御見込及汪今後ノ行動等諸般ノ情勢貴見ト共ニ電報アリタシ

406

昭和13年12月25日　在上海後藤総領事代理より有田外務大臣宛（電報）

汪兆銘の重慶離脱に関する漢字紙報道振りについて

上　海　12月25日後発
本　省　12月25日後着

第三八〇〇號
往電第三七九二號ニ關シ
二十五日各漢字紙ハ何レモ汪出國ノ事實ヲ認メ多ク二十四日重慶發槐樹社及「トランス、オーシヤン」電ヲ掲ケ居レルモ殊更之ヲ輕ク取扱ヒ居レル處前者ニ依レハ重慶官邊側ハ汪ノ出國說ヲ肯定シ汪ハ宿痾再發ノ爲中央ノ許可ヲ得テ四箇月ノ休暇ヲ得タルヲ以テ昆明ヨリ河內ニ赴キ醫師ノ診療ヲ受ケタル後不日香港ヨリ外遊スルコトトナリタリト語リタルモ其ノ行先國ニ付テハ何等說明セサリシ趣ナルカ後者ニ依レハ消息通間ニ於テハ汪平素ノ態度ハ和議主張者タル傾向ヲ帶フルモ此ノ際汪カ日本ト和平交涉ノ意圖ヲ絕對有スル筈ナク汪今次ノ出國カ偶々近衞ノ聲明ト時ヲ同クシタルニ過キスト爲シ汪ノ對日和議可能性ヲ極力否定シ居ル趣ナリ
北京、天津、南京へ轉電セリ
香港へ轉電アリタシ

407

昭和13年12月26日　在香港田尻総領事より有田外務大臣宛（電報）

汪兆銘の重慶離脱は汪・蔣離反の第一歩なるも今後の行動は不確定との観測について

香　港　12月26日夜発
本　省　12月27日前着

第一六七七號（極祕、館長符號）
重慶飛行場ノ警戒異常ニ嚴重ナル際汪ガ脫出スル爲ニハ蔣トノ間ニ何等了解アルニ非ルヤノ點ハ多大ノ關心ヲ以テ調査シ居ル所ナルガ（當日蔣ハ西安ニ在リシ由情報アリ）本件ニ關スル重慶中央社ノ發表及支那新聞ノ取扱振ハ既報ノ通

ニテ蔣側ニ於テハ本件ガ世間ノ問題化スルヲ避クルト共ニ下手ナ取扱ヲ爲シ薮蛇トナラザル樣注意シ居ルガ如ク見受ケラルル一方往電第一六六四號新聞記事出ヅルヤ高ハ寧ロ先手ヲ打ツニ如カズトナシ「最近國共合作モ進捗シ政府改組近キニ鑑ミ又暴動計画アルニ付汪ノ外周佛海、陳立夫及トウキセイ?等ガ竊ニ重慶ヨリ行衞ヲ晦マセル」趣旨ヲ重慶電報ノ形式トシテ當地ニ於テ然ルベク發表方ヲ提議シ本官等ノ協力ヲ求メ來レル事實アリ(不幸ニシテ當地ニ於テ之ヲ爲ス爲ノ途開カレ居ラザルモ廿三日大公報夕刊ノ記事ハ不完全ナガラ右工作ノ結果出デタルモノナリ尙全文發表方ニ付テハ目下上海ニ於テ措置中)先方從來ノ言分ハ大体信ズベキモノアリ尙周及陳公博ノ脫出ハ新聞ニモ報ゼラレ居リ事實ナルモノノ如ク(往電第一六八一號等御參照アリ度シ)又汪ガ年內ニ來香スルコトモ略々確實ト認メラレ彼此綜合スルニ汪ガ蔣ノ意ヲ享ケ行動シツツアリトハ結論シ得ザルモ蔣ガ今後汪ヲ利用スル工作ニ出ヅル可能性ハ無キニシモアラズ又我方トシテモ汪ニ對シ直ニ積極的反蔣活動ヲ望ムモ無理ニシテ現在ノ段階ニ於テハ國府陣營ニ罅ガ入ル程度以上ハ期待シ得ズ將來ノ利用ハ我方ノ決意及指導振ニ俟ツモノ多カルベク一方汪ノ離榆(渝カ)ニ依リ重慶ハ共產抗日分子ノミノ勢力トナルヲ以テ之ニ對抗スル爲ニハ他方面ノ反蔣分子ニモ手ヲ着クル必要モアリト考ヘラル尙汪ノ脫出ニ依リ汪蔣離反ノ第一步踏出サレタル譯ナルガ前電ノ通汪今後ノ行動ハ何等確定スルニ至ラズ既電ノ通昆明ガ中心トナルヤ否ヤハ未定ナルモカカル考モアルニ付我方計画ヲ一時延期スルモ差シテ不都合モナカルベシト思ヒ卑見申進セシ次第ナリ

當地邦人新聞通信ニ對シテハ汪ガ利用シウルヤ否ヤハ今後ノ問題ナルヲ以テ外支側ヨリモ先走リテ我方ト關係アルガ如キ惴(揣カ)摩憶測ノ記事通信ヲ愼ムベキ旨注意肝要ト存ズ

408

昭和13年12月26日　在香港田尻総領事より
有田外務大臣宛(電報)

汪兆銘の重慶離脱経緯に関する情報

香　港　12月26日後発
本　省　12月26日夜着

第一六八一號(極祕)
往(1)電第一六七九號(見当ラズ)ニ關シ

其ノ後引續キ支那側各方面ト連絡中ノXYZカ內報スル所左ノ通リ

二十二日重慶發當地申報館ニ達シタル航空便ニ依レハ武漢陷落後衡陽ニ在ル蔣介石等主戰派ト重慶ノ汪精衛等主和派トノ間ニ無形ノ內ニ對立狀態ヲ呈シ汪ノ重慶ニ於テ發表セル前後二回ノ和平聲明ノ如キモ主和派ノ主張ヲ代表セルモノニシテ事前ノ同意ヲ得タルモノニアラス又蔣カ衡陽ニ招集セル軍事會議ニ於テ決定セル中共トノ合作ノ强化竝ニ連蘇抗日國策ノ如キモ亦當時衡陽主戰派ノ意嚮ヲ代表セルモノニ外ナラス其ノ後蔣重慶ニ歸還後汪ヨリ蔣ニ對シ汪カ表面ニ立チ和議交涉ヲ進メ度キニ付一時蔣ノ下野方建議シタルコトアルモ(同樣ノ說別途情報ニモアリ)蔣ハ連蘇國策ノ變更ハ出來ストテ之ヲ拒絕セリ當時之ヲ聞知セル孫科一派ハ汪派ニ取ツテ代ラン下心モアリ猛烈ニ汪ノ軟弱態度ヲ攻擊セルカ更ニ本月十九日蔣ノ擴大記念週間席上ニ於テ暗ニ汪ヲ攻擊スルノ措辭アリ次テ彭學沛モ免職セラルル等ノ事件モ發生汪ハ極度ニ不安ヲ感シ居レリ云々トアリ

汪[2]離渝前ノ蔣汪關係想見シ得ル處一方廿四日在香ノ孔祥熙息孔令侃ニ確メタルニ汪ノ河內行ハ曾仲鳴ニ於テ前週既ニ河內ニ赴キ出迎ノ準備ヲ進メ居リタル事實又在渝ノ汪派幹部モ一律ニ退去セル事實モアル趣ニテ餘程計畫的ニ爲サレタルモノト思ハル更ニ在香ノ汪派李聖伍ノ消息ニ依レハ陳璧君目下在香中ノコトニモアリ汪ノ來香說傳ヘラレ居ル趣ニテ是等各般消息ヨリ見レハ汪自身今後ノ行動ニ付最後的肚極マリ居ルト言フ譯ニハアラサルヘキモ元來汪ハ特ニ主張ナキ人物ナレハ新政權ノ指導者ニ利用シ得ル可能性大ナリト思ハル但シ其ノ場合ニ於テモ日本側トシテハ(往電第一六七九號ノ次第モアリ)蔣汪馴合ノ場合ヲモ考慮ニ入レ置キ愼重對處スル要アリ何レニセヨ汪利用ノ第一步ハ汪カ重慶側ニ引留メラルルヲ阻止スルニアリ(既ニ張公權等ハ他用旁汪ニ面會ノ爲河內ニ赴ケル由)云々御參考迄

上海へ轉電セリ

409

昭和13年12月27日　在上海後藤總領事代理より有田外務大臣宛(電報)

汪兆銘の出国は転地療養目的の個人的行動であるとの蔣介石訓話について

上　海　12月27日後発
本　省　12月27日夜着

第三八一三號

二十六日重慶發路透ニ依レハ同地漢字紙ハ四川省黨部主任陳公博モ河内ニ赴キ汪精衛ト會見ノ上王纘緒(纘カ)(四川省政府主席)ニ對シ直ニ成都歸還不能ニ付省黨務ノ代行方要請セル旨報シ居レル趣ナル處同日重慶電ニ依レハ蔣介石ハ同日記念週訓話中汪ノ離渝ハ軍事委員會ヲ代表シ對日和平交涉ノ爲ナリトスル獨逸側消息ハ全然日本ノ逆宣傳ノ影響ニ基クモノニシテ國民ノ視聽ヲ惑ハスノミナラス支那ノ抗戰決意ニ對スル國際間ノ認識ヲ動搖セシムル用意ニ出テタルモノナルカ故ニ特ニ聲明ノ要アリト前提シ汪ノ河内行ハ轉地療養ニシテ純然タル個人行動タリ毫モ政治的意味ナク軍事委員會トモ中央及國民政府トモ全然關係ナシト斷シ汪ノ立身處世ノ眞摯性ト當國ニ對スル功績ヲ稱揚シ既ニ敵人ノ支那併呑陰謀ノ內容ト手段ハ暴露セラレテ剩ス所ナキ以上一人トシテ對日妥協和平ノ意圖ヲ有スルモノナシト豪語スルト共ニ若シ汪ニシテ國策ニ對シ主張シ且意見アラハ久シク艱苦ヲ共ニセル中央同人及余(蔣)ニ對シ又ハ中央公開席上或ハ個人相互間ニ於テ言明シ又ハ討議セサル筈ナク斯ル國家存亡ノ重大事ニ關シ何人カ之ヲ耳ニセサル理ナシ、固ヨリ汪ノ愛黨愛國ノ精神ハ終始一貫シ共ニ抗戰目的貫徹ニ努力シ居ルヲ以テ國人ハ必ス外間一切ノ揣摩謠言ニ信ヲ置カサルヘク敵人ノ常套的挑發離間策ハ一笑ニ値セスト語リタル趣ナリ

北京、天津、南京、漢口ヘ轉電セリ

香港ヘ轉電アリタシ

410

昭和13年12月28日　在上海後藤総領事代理より
有田外務大臣宛(電報)

汪兆銘の重慶離脱に関する褚民誼見解について

上　海　12月28日後発
本　省　12月28日夜着

第三八二八號(極祕)

汪ノ重慶脫出ニ關シ二十七日褚民誼カ清水ニ語ル所御參考迄左ノ通リ

汪ノ重慶脫出ハ蔣ト何ノ程度ノ了解ノ下ニ行ハレタルモノナリヤ將又全然汪一個人ノ考ニテ決行シタルモノナルヤ未

タ確タル情報ニ接セサルモ共產黨ノ勢力日ニ增大シツツアル重慶方面ノ狀況ヨリ察スルニ汪ハ結局共產黨ニ屈服スルヲ潔シトセス身ヲ以テ反共ノ意思ヲ表明セルモノト思ハル元來政府首腦部ニハ反共ノ志ヲ懷ク者相當多數アリ唯何人モ敢テ其ノ先頭ヲ切ル勇氣ナカリシ次第ナルカ今回既ニ汪ニ依リ一石ヲ投セラレタル以上今後ハ續々其ノ後ヲ追ヒ脫出シ來ル者ヲ生スルニ至ルヘシ從テ時局解決ノ方法モ此ノ新情勢ニ應シ改メテ考究ヲ要スル次第ナルカ何レニスルモ第一ハ汪ノ政治的生命ヲ保存スルコト肝要ナルニ付㈠日本側ト汪トノ聯絡ハ當分極メテ內密ニ之ヲ行ヒ反對派ヨリ漢奸賣國奴ノ汚名ヲ冠セラレサル樣注意スル必要アリ㈡從テ當分ノ間日本側ノ新聞ニ於テモ汪等ノ行動ニ關スル事實ノ報道ヲ爲スハ差支ナキモ日本ト關係アリ又ハ日本ト關係ヲ生セントスルカ如キ觀測的乃至希望的記事ハ絕對ニ之ヲ揭ケサルコト望マシク㈢殊ニ若シ汪カ重慶政府ヲ見限リテ出テ來リタルコト判明セハ今後引續キ然ルヘク多數ノ同志カ汪ノ下ニ參加シ得ル樣工作ヲ進ムルト共ニ出來得レハ適當ノ地方(例ヘハ廣東ノ如キ)ニ自發的ニ一機構ヲ作ラシメ(例ヘハ某委員會又ハ某政府等)タル後之ト事變解決ノ話合ヲ爲ス方法ヲ執ルコト最モ賢明ナル方策ナリト思考ス

北京、天津、南京、漢口へ轉電セリ

香港、廣東へ轉電アリタシ

411

昭和13年12月29日　在上海後藤總領事代理より有田外務大臣宛(電報)

汪兆銘の重慶離脫經緯に關する傅式說內報について

上　海　12月29日後發

本　省　12月29日夜着

第三八三七號(極祕、館長符號扱)

汪兆銘脫出ニ關シ傅式說カ二十九日淸水ニ內報スル所左ノ通リ

汪ノ引出工作ハ既ニ十一月頃ヨリ梅思平、周佛海、高宗武等ヲ通シ進メ居リタルモノニシテ今回ノ脫出ノ經過ハ先ツ成都ニ在リシ陳公博カ四川大學校長ノ程天放ト圖リ講演ノ爲ト稱シテ汪ヲ成都ニ招キ一方周佛海ハ昆明ニ於テ龍雲ト謀リ成都ヨリ直接汪ヲ昆明ニ招キ其ノ儘河內ニ逃シタルモノニテ全ク同人等ノ計畫カ成功シタルモノト察セラル我々

ノ聯絡セル分子ハ今後續々重慶ヲ引揚ケ大體一月末迄ニハ大部分香港又ハ上海ニ集リ來ル見込ナリ尚梅思平及王正廷ヨリノ電報ニ依リ不取敢聯絡ノ爲昨朝崔士傑ヲ香港ニ出發セシメタリ

傳ハ當方指導ノ政治工作ヲ擔當シ居ル關係モアリ本電絶對極祕トシテ取扱ハレタシ

北京、上海、漢口、廣東、香港へ轉電セリ

412 昭和13年12月29日 在ハノイ鈴木總領事より有田外務大臣宛（電報）

汪兆銘のハノイ来訪に関する諜報について

ハノイ 12月29日後発
本省 12月29日夜着

第三一一號

汪精衞ノ來印說ニ關シ諜報者ノ黃强（汪ニ會見セル由）ヨリ聞出セル所ニ依レハ汪ハ飛行機ニテ重慶ヨリ昆明經由二十二日河內ニ逃亡シ來レルコト確實ナリ而シテ右ハ汪カ蔣介石ニ對日講和ヲ建白セルニ對シ蔣カ飽迄英米援助ノ下ニ絕對抗日ニ終始スヘキヲ主張シ汪カ英米ノ恃ムニ足ラサルヘキヲ忠告セルモ蔣ハ頑トシテ之ニ應セサル爲汪ノ立場不利トナレルニ依リ亡命シ來レルモノニ他ナラス從テ現在河內ニ於ケル汪ノ居所ハ極祕ニセラレ居リ汪ハ香港乃至西貢經由佛國ニ逃亡セントスル趣ノ如シ

佛、英、米、北京、滿、新嘉坡、臺灣外務部長へ轉電アリタシ

北京ヨリ在支各總領事へ轉電アリタシ

西貢へ轉電セリ

413 昭和13年12月29日

日中国交調整の根本方針に関する近衛総理声明に呼応する汪兆銘声明

汪精衞第一次聲明

一三、一二、二九

去る四月開催せられた臨時全國代表大會宣言は現在の抗戰の原因を次の如くに說明して居る。「一九三四年（三カ）塘沽停戰協定締結の後、あらゆる屈辱を忍んで日本との交涉に應してきたのはこれによつて軍事行動を避け、次の事柄を平和

的方法によつて遂行せんと願つたからに外ならぬ、卽ち先す第一に北支諸省の保全を謀り次に東北四省問題を合理的に、卽ち政治的には主權の保持と行政の完整を最低限度の條件とし經濟的には互惠と平等とを原則として解決するにあつた。然るに一九三七年七月蘆溝橋事件の勃發するや支那は上記の如き平和的解決への希望の到底實現し得さるを知り、ここに抗戰をなすに至つたのである、然るに日本政府は去る十二月二十二日の聲明に於て日支國交再調整に關する日本政府の根本方針を闡明した、右方針に於て强調された第一の點は善隣竝に友好の主義である、卽ち右聲明は日本は支那に對し領土をも賠償をも要求するものに非す、日本は啻に支那の主權を尊重するはかりてなく支那の完全なる獨立を確保する爲に日本か明治時代に於て實行せる政策の例に倣ひ、日本人か支那に於て自由に生活し、且つ商業を營み得る代償として日本は支那に租界を返還し且つ支那に於ける治外法權の撤廢に同意せんとしてゐる、日本政府かかかる宣言を嚴かに發表せる以上、吾人は平和的手段によつて北支各省の安全を保障し得るのみならす又抗戰以來敵手に落ちたる各地をも收復し得、更に主權と行政の獨立完整も亦保持し得るてあらう、されは我々は大會の宣言に從ひ北支四省問題の合理的解決を得るために我々の態度を決定し何等かの措置に出つへきてある、第二の點は共同防共てある。この問題は過去數ケ年に亘り日本政府によつて極めて屢々提起され來つた、然し我々は日本との斯る共同防共は支那の軍事的竝に政治的問題の干涉に迄導く可能性ありとして之に對して疑惑の念を抱いて來たか、日本か日支防共協定は現存する日獨伊三國防共協定文と同樣な精神に於て締結さるへき旨の極めて卒直なる言明をなした以上斯る疑惑は今や撤回せらるへきてある、防共協定の目的かコミンテルンの陰謀を防止せんとするものてある以上、此の協定は支那のソ聯との關係に影響を及ほすことはない。加之中國共產黨は旣に三民主義の實現のために奮鬪することを願ふと聲明したのてある以上、その黨組織竝に宣傳工作を止め、その邊境政府とその特殊なる軍事組織を廢止し且つ中華民國政府の法律制度に絕對的に服從すへきてある、三民主義は支那國民の最高原則てある、從つて一切のこの最高原則に違背する組織と宣傳とに對しては我々は自動的に且積極的に制裁を加へ、吾人の中華民國を維持するとい

ふ責務を果さねはならない。第三の點は經濟提携てある、この問題も亦同樣過去數ケ年に亘り日本政府から屢々提議し來つたものてある、然して現在迄我々は政治的紛糾か未解決のまま殘されてゐる限り經濟的提携の如きは全く問題にならぬとの見解を持して來た、然し日本政府は今や嚴肅に日本は支那の主權を尊重し、行政の獨立、完整を尊重すると言明し且つ經濟的に日本は支那に對する獨占的支配を目的とするものてなく又支那に對して第三國權益の制限を要求せんとするものてもなく、唯日支兩國か平等の原則に依り、經濟提携の實現を謀らんと望んて居るものなることを闡明して居る、事態か斯の如くてあるならは我々は原則として之に同意しその基礎の上に各種の具體的提案を提出せねはならない、余は愼重なる考慮の後次の如く確信する、國民政府は上記三點の基礎の上に速かに和平恢復を期するため日本政府と意見の交換をなすへきてある、此の際去る十一月三日日本政府かその聲明に於て一月十六日の聲明に述へた態度を變更したことを想起せねはならない、從つて若し國民政府か上記三點を和平討議の基礎とするならは尙商議への途は開かれるのてある、支那の武力抵抗の目的はその國家的存在と獨立とを確保する爲てある、既に一年以上に及ふ抗戰に於て我國は甚大な打擊を蒙つた、若し我々か正義に則つて平和を再建し得るならは國家の存續と獨立とは維持されここに武力抵抗の目的は達成されるのてある、而して以上の三點は平和の精神と一致するものてある、更に和平の條件については、我々はその條件の妥當性を確實ならしめる爲に之に愼重な考慮を加へなけれはならぬ就中特別重要なる點は日本軍の支那からの撤兵にその全部か急速且つあらゆる方面に於て一齊に行はれなけれはならぬことてある、更に提案された日支防共協定の存續期間中日本軍の駐屯すへき所謂特定地區は唯內蒙附近のみに制限されなけれはならぬ、この駐兵は正に支那の主權竝に政治的獨立及ひ領土權に影響を及ほすものてあるか支那は以上の制限か行はれることによつて始めて戰後の復興と再建事業とを遂行し得るのてある。日支兩國の近隣關係に鑑み中國竝ひに日本の善隣と友交關係とは極めて自然なことてあり且必要なことてある、正常な狀態から逸脫してゐる現狀は徹底的に再檢討を加へる必要かあり日支兩國双方共に右に對する相互の責任を究明すへきてある、日支兩國間の恆久的

平和の礎石を築くためには支那はその教育政策を善隣主義と相矛盾せしめさるのみならす、他方日本の側に於ても亦支那に對する傳統的蔑視の態度竝に征服思想を放棄しその代りに親交的教育政策を樹立すへきてある、之こそ東亞の福祉の爲に我等か努むへき所てある同時に太平洋に於てのみならす廣く全世界に於ける平和と安全とを確保する爲に我々は國際親善竝に相互の利益增進の共通の大義の爲にあらゆる關係各國とも協力すへきてある、余はこの機會を利用して以上述へ來つた提案をなし且つ之等の提案か容れられることを衷心希望するものてある。

414

昭和13年12月31日　在香港田尻総領事より
有田外務大臣宛（電報）

汪声明に関する漢字紙報道振りについて

香　港　12月31日後発
本　省　12月31日夜着

第一七一三號

汪精衞ノ通電ニ關シ（全文同盟ヨリ報告濟）三十一日ノ漢字紙ハ「青天ノ霹靂遂ニ近衞聲明ニ響應シテ日本ノ提示條件ヲ接受シ妥協ヲ主張ス」、「前線ノ將士血ヲ浴ヒ苦戰ノ際遂ニ和ヲ唱ヘ全國民ノ好意ニ背キ中途ニ屈服ス」、「公然對日和議ヲ唱ヘ日人ノ謀計ニ陷ル所謂三點ハ日本カ之ニ依リ我ヲ亡ホサントスルモノナリ」等ノ大見出ヲ以テ之ヲ報道シ唯大公報ノミ事ノ重大性ニ鑑ミ中央ノ許可ヲ待ツトテ發表ヲ差控ヘ居レリ

星島日報及申報等ハ社說ヲ掲ケ汪ハ開戰以來屢和平ノ主張ヲ爲シ日本側ト相呼應シ來リタルカ果然今回ノ聲明ハ近衞聲明ト同巧（工カ）異曲ニシテ三尺ノ童兒スラ知ル日本ノ謀略ニ陷リ居レリ日本ノ條件ヲ以テ讓歩ト看做シ之ト妥協セントスルニ至リテハ反駁ノ價値スラナシ（星島日報）六十年間侵略ヲ續ケ來リタル日本ト妥協獨立平等ノ地位ヲ求メントスルカ如キハ痴人ノ夢ニ等シ汪ノ速カナル反省ヲ求ム（申報）等論シ居レリ

上海ヘ轉電アリタシ

415

昭和13年12月31日　在香港田尻総領事より
有田外務大臣宛（電報）

当面における汪兆銘と重慶政権との応酬振り

静観方具申

香　港　12月31日夜発
本　省　12月31日夜着

第一七一四號（極祕、館長符號）
往電一六八八號ニ關シ
一、三十日夜高ガ今井ヘノ内話ニ依レバ（本官發熱ノ爲同席シ得ズ）
(イ)今回ノ聲明ハ汪自身ノ起草ニ係リ大膽率直ナルニハ高モ驚ケリ
(ロ)陳公博、周佛海、トウキセイ、二十九日來香、顧孟餘、梅思平、黄强(?)當地ニ於テ劃策スルコトトナレリ
(ハ)汪ハ足首ヲ挫キ療養中ニテ二週間内ニハ來香ノ見込
(ニ)四川軍、雲南軍ハ彼等ト共ニアリ又中央軍モ三割ヲ懷柔シ得ル見込ナルガ擧兵ノ期日ハ明ナラズ要ハ今後言論宣傳戰ヲ併セ行ヒ蔣ヲ居タタマラナクスルニ在リ
(ホ)雲南ヲ通過スル武器及往電第一六四五號銀行券ハ凡テ手ニ入レ得ル見込ナルガ我方ヨリ月三百萬弗位ノ補助ヲ得タク其他作戰上ノ援助ヲ希望ス
二、以上ノ狀勢ニ於ケル本官ノ觀測ハ冒頭往電ノ範圍ヲ出デズ尚重慶ノ赤化卽チ蔣ト共產黨トノ合作ヲ各方面ヨリ宣傳スルト共ニ占領地政權側ヲシテ汪ノ聲明ニ故ラ迎合シ彼ヲ引摺リ倒スガ如キ結果トナル放送ヲ愼シマシムルヲ可トスベシ
三、汪ノ聲明ヲ細カク突付ケバ不滿足ノ點アルベキモ先方ニ對シ之ヲ問題トシテ取リ上グル時期ハ未ダ到來セザルモノト認メラレ當分ハ彼等ト重慶間ノ應酬振ヲ靜觀スル旁ラ其ノ立場ヲ窮窟ナラシメザルコト可然ト存ズ

416
昭和14年1月2日　在上海後藤総領事代理より有田外務大臣宛（電報）

汪兆銘の党籍永久剝奪および一切の職務罷免を重慶政権決定について

上　海　1月2日後発
本　省　1月2日夜着

第一號
新聞報道ニ依レハ一日重慶中央執行委員會ハ臨時會議ヲ招集汪精衞ノ規律違反、黨國毀害案ヲ上程附議ノ結果永久ニ汪ノ黨籍褫奪、一切ノ職務罷免方ヲ可決シタルカ同時ニ中

央監察委員會モ臨時常務委員會ヲ招集シ同シク本件ヲ上程ノ上之ヲ議決通過セシメタル趣ナリ尚一日重慶發「ルーター」電ニ依レハ政府筋ハ未タ汪ノ和平通電ヲ接受セス旁々本電ハ汪自身ノ發出セルモノナリヤ否ヤヲ確メタル上正式ノ意見ヲ發表スヘシト爲シ居レルカ消息通間ニ於テハ汪ノ和平解決論ハ從來ノ持論ヨリシテ意トスルニ足ラサルモ現下支那軍カ長期抗戰ノ目標ノ下ニ完全ナル體制改變ヲ整ヘ英米ノ對支借款成立ニ基キ支那金融界ノ地位ヲ安定セシメ且第三國ノ北支權益尊重ニ關スル日本ノ保障ニ對シ英米側ノ疑惑ヨリ支那ノ國際地位ヲ有利ニ導キ更ニ支那カ一層團結シ奥地戰ニ於ケル支那軍ノ優勢的地位ヲ確保シ來ル等局面大イニ好轉セル今日汪今次ノ行爲ハ全ク不可解トスル所ニシテ該通電モ果シテ汪自身ノ發出シタルモノナリヤ極メテ疑問ナリト認メ居ル趣ナリ

北京、天津、南京、漢口へ轉電セリ

香港へ轉電アリタシ

417　昭和14年1月3日　在上海三浦総領事より有田外務大臣宛（電報）

汪兆銘離脱に対する重慶中央および周恩来の反応について

上　海　1月3日後発
本　省　1月3日夜着

第五號

往(1)電第一號ニ關シ

新聞報道ニ依レハ一日重慶中央宣傳部政治部ハ左記ノ通リ對外聲明ト對內指示ヲ發表シタル趣ニテ其ノ大要左ノ通リ

一、對外聲明

汪今次ノ離國療養ニ關シ國內同志ハ何等正式ノ通報電報ニ接セサル事實ニ鑑ミルモ汪今次ノ行動ハ全ク私人的ノモノタルハ明カニシテ黨、政、軍各方面共全然關係ナク從テ其ノ在外行動ハ如何ナル方面ヲモ代表スルモノニアラス汪ノ宣言ハ單ニ其ノ個人ノ意思或ハ極ク少數ノ意思薄弱ナル者ヲ代表シタルモノニテ抗戰前途ニ何等影響ナキノミナラス日支問題ハ一朝一夕事ニアラサル故ニ一ツニ吾人ノ意氣ニ依リ我既定方針ヲ輕々ニ變更スヘキニアラス全ク汪ノ言フ所ハ一時敵人ノ狡猾サニ欺瞞セラレタルモノニシテ近衞ノ聲明ハ一トシテ支那滅亡ノ陰謀タラ

サルナキハ三歳ノ童兒モ之ヲ指摘シ得ル所ナルカ一歩讓ツテ近衞ノ聲明ニシテ果シテ最低限度ノ誠意ヲ有スルモノトセハ日本カ全ク力盡キ矢折レテ既ニ異常ノ窮地ニ陷リタルヲ證明シ得ヘク將ニ吾人ニ取リ積極的反抗ヲ計リ失地收復最後ノ勝利ヲ完成スルニ絕好ノ機會ナルニ何ソ中途ニ於テ妥協スルコトヲ得ン

尤モ革命成功ノ歷史ヲ考フルニ往々中途ニ於テ妥協分子ノ生スルコトハ免レサル所ニシテ其ノ例少カラス斯ル事件ノ發生ハ革命陣營ノ分化ニアラスシテ實際上却テ革命力量ノ團結ト强化ヲ加ヘ其ノ發展ト成功ハ一層把握セラルヘク現下大敵ヲ目前ニ控ヘ居ル吾人ハ最高領袖ノ統制下ニ徹底的抗戰ヲ堅持シ敵人ノ離間挑發ニ惑フコトナシ

二、對內指示[2]

一ト略同樣ノ內容ニテ汪ノ宣言內容ハ明カニ日本帝國主義ニ對スル屈伏ヲ表示シ支那滅亡ノ條件ヲ承認シタルモノニシテ客觀的ニハ敵陣ニ投降シ祖國ヲ賣リタルト同斷ニテ我革命史上ノ最大汚點ナリト稱シ斯ル行爲ハ黨國ニ何等影響ナシト斷シ吾人ハ第二抗戰期ニ於テハ此ノ種內訌ヲ肅淸シ徹底抗戰最後ノ勝利ヲ期待スヘシト指示シ居

レリ

尙二日重慶發路透電ニ依レハ周恩來ハ同社記者ニ對シ汪ノ和平運動ハ意トスルニ足ラス二十年來ノ交ニ依リ汪ハ全ク懦夫タルヲ深ク知リ居レリトテ汪ノ經歷ヲ語リ十一月湖南省南嶽ニ於ケル軍事會議ニ於テ一同汪ノ和平說ヲ痛罵シタルカ第二次參政會席上ニ於テモ汪ノ腹心ハ英、米、佛、蘇ハ賴ムニ足ラサルヲ以テ支那ハ獨、伊ノ助力ヲ得テ和平解決ヲ計ルヘシトノ謬論ヲ得々トシテ述ヘタルコトアリ更ニ汪ハ香港ニ在ル腹心ヲシテ日本側ト折衝セシメ腹心ハ嘗テ東京ニ赴キタル程ナルカ汪今次ノ行動ハ旣ニ支那內部ノ團結ヲ破壞シ能ハサルト共ニ全然支那ノ抗戰力ヲ毀損スルコト能ハス曾仲鳴、褚民誼等取ルニ足ラサル少數ノ者以外政府及軍隊部內ニ汪ヲ擁護スル者ナク顧孟餘或ハ陳公博モ汪ト同類ト爲ス說ハ猶疑問ナリ又汪ノ香港行ニ關シ事前蔣介石ト了解アリト爲ス謠言ハ不確實ニシテ蔣カ汪今次ノ行動ト全然關係ナキコトヲ深ク信スルモノナリト語リタル趣ナリ

北京、天津、南京、漢口へ轉電セリ

香港へ轉電アリタシ

418

昭和14年1月4日　在香港田尻総領事より有田外務大臣宛（電報）

重慶政権に対する内部切崩しおよび自壊促進のための現地宣伝工作方針について

香　港　1月4日前発
本　省　1月4日後着

第一一號（極祕、館長符號扱）

汪[1]精衛事件善後措置トシテ重慶側ハ汪ノ黨籍ヲ取消シ汪派（欄外記入）分子ハ勿論反共又ハ從來態度曖昧ナル連中ヲ逮捕又ハ監視シ極力部内ノ動搖ノ波及防止ニ腐心シ居ル一方外部ニ對シテハ異分子ノ肅清ニ依リ國共合作ハ益々強固トナリ抗日戰線ニ些カノ動搖ナキカ如ク宣傳シ努メテ平靜ヲ裝ヒ居ル處斯クセネハナラヌ丈ケニ實際ノ打擊ハ大ナリト觀テ差支ナク抗日統一戰線ノ一角先ツ崩レタリト認メ得ヘシ今後共蔣側ノ努力ニ拘ラス漸次異分子ノ脫落豫想セラルル次第ナルカ一方從來支那側各派ハ一應抗日ノ爲統制セラレ居タルニ拘ラス内部ニ種々意見ノ對立矛盾ノ存在アリ（汪ノ脫出モ他ノ原因ハ別トシ右ノ現レト觀ラルヘシ）從テ各派間ニ相互警戒ノ念存在シ居リ右警戒ハ將來相互ニ愈々深メラレ行クヘキハ疑ナキヲ以テ（殊ニ國共間ニ於テ然リ）我[2]方ニ於テ此ノ機ヲ逸セス蔣政權ノ内部切崩自壞促進ノ積極工作ニ出ツルニ於テハ蘇聯カ疑心暗鬼ノ結果行ヒ居ル血ノ肅清工作同樣ノ事態ニ迄持行クコト必スシモ不可能ニアラスト考ヘラル之カ爲ニハ差當リノ思付トシテ

一、支那紙ハ汪聲明ニ對スル周恩來ノ感想ヲ發表シ居ル處右ニ依レハ周モ一應ハ汪ノ行動カ蔣介石トハ全然關係ナシト否認シ居ルモ未タ釋然タラサル樣子言外ニ現レ居ル事實ニモ鑑ミ此ノ際我方ニ於テ邦字、外字紙ヲ通シ各種情報等モ斟酌シ汪ノ裏面ニ蔣ノ了解及指金アルコトヲ極力強調シ共產黨ノ疑心ヲ深メシメ行クコト（此ノ種工作ハ蔣從來ノ二重政策ヨリ觀テ相當效果ヲ期待シ得ヘシ）

二、孔祥熙一派ハ尚蔣トノ和平交涉ニ一縷ノ望ヲ棄テス焚光等ヲ通シ必要ナル策動ヲ續ケ居ルモノノ如ク其ノ背後ニハ蔣ノ了解アリトノ可ナリ確カナル情報モアル次第ナルカ我方ニ於テ將來蔣トノ直接交涉ヲ考ヘ居ラス又孔ノ分離ノ見込ナシトセハ適當ノ機會ニ於テ右ノ策動ヲ暴露シテ汪一人カ主和派ニアラス孔モ蔣モ同穴ノ狢ナルコトヲ宣傳スルコト

三、(3)從來上海ニ於テ我方一部ト重慶朱家驊、陳立夫、陳布雷トノ間ニ行ハレ居ル交渉ノ如キモ彼等ヨリノ返電原文ハ當方ノ手ニ在ルコトニモアリ彼等ノ引入愈々見込ナキニ至ラハ之亦暴露戰術ニ出ツルコト等ニ依リ内部分裂殊ニ國共離間ヲ深メ行ク方法ヲ考ヘ得ル譯ナルカ我方トシテハ分離者ヲ引入レ度シトノ希望モ強キ次第ニテ二及三ノ實際ノ宣傳振及時期ハ相當愼重ナルヲ要スルモ時宜ニ應シ大體右「ライン」ニテ宣傳工作ヲ進メルコトト致度シ上海ヘ轉電アリタシ

（欄外記入）
王工(汪カ)作ノ主眼トスル所ハ内部切崩自壞促進ニアリテ、王(汪カ)ヲシテ支那側ヲ拾收セシメ、之ニ基礎ヲオキテ和平ヲナサントスルカ如キ考ナキハ勿論ニ付(軍ノ一部ガ如何ナル希望ヲ有ストシテモ、右ハ尠クトモ實現不可能ナルノミナラス、默視シカタキ所ナリ)本電ノ趣旨ニヨリ折角努力サレ度旨返電スルコト(田尻ヲ激勵ノ意味)土肥原機關ノ任務及ビ□(一字不明)ノ腹案(王工(汪カ)作(切崩)ノ成績ヲ見極メタル上大体二、三月ノ□□□(三字不明)ヲ擁立、中央政府建設)ノ大体ヲ附記スルコト

419
昭和14年1月4日　在香港田尻総領事より有田外務大臣宛(電報)

汪兆銘の立場を擁護する記事発出の必要性につき意見具申

香　港　1月4日後発
本　省　1月5日前着

第一三號(極祕、館長符號扱)
汪(1)ノ聲明ハ之ヲ中心ニ重慶トノ間ニ何分ノ應酬ヲ重ネ結局蔣ヨリ分離スルノ已ムナキニ至レリトノ形ヲ執リ以テ自己ノ立場ヲ作ラントスル肚ニテ爲セリ從テ蔣介石ニ對スル攻撃ハ一言モ爲ササリシモノトノ高宗武ノ解釋モアリ既電ノ通リ我方ニ於テ當分靜觀スルコト然ルヘシト考ヘタル次第ナルカ重慶ノ態度ハ右ニ反シ直ニ黨籍剝奪ノ擧ニ出テ汪ハ四面楚歌ノ裡ニ置カレタルノミナラス一日ノ東京發路透ハ汪カ近衛聲明ヲ誤解シ居ル旨ヲ傳ヘ三日ノ大公報ハ社說ニ之ヲ引用攻撃シタル爲高ハ聯絡者ヲ介シ日本政府ニ於テ何等同情アル態度ヲ示シ汪ノ立場ヲ救ハレ度キ旨ヲ申入レ來レリ固ヨリ汪ノ聲明ニハ我方トシテ不滿足ナル點モアリ又本人モ未タ來香セス關係者モ周圍ノ監視ヲ惧レ其ノ後面談

ノ機會ナキヲ以テ汪ノ眞意ハ捕捉スルニ由ナキ事情モアリテ高ノ希望ヲ容レ政府トシテ汪ノ聲明ニ俄ニ贊意ヲ表シ得サル次第ナルカ（逆ニ其ノ内容ヲ批評スル時機ニモアラス）彼[2]ヲ將來利用スル爲其ノ立場ヲ固メサス意味ニ於テ貴地一、二ノ新聞ヲシテ「汪今次ノ措置ハ戰爭ノ慘禍ヨリ民生ヲ救ヒ赤魔ノ漫延ヲ防ク目的ヲ以テ爲サレタル大政治家ノ動キナリトシテ我方ニハ關係ナク之ヲ稱讃スルト共ニ支那ノ謬レル抗日戰線ノ一角ハ之ニ依リ崩壞シ重慶ノ空宣傳ニ拘ラス大局ハ變化シツツアリ第三國モ此ノ新情勢ヲ悟ルヘキナリトシテ蔣ノ前途ニ希望ヲ懸ケ居ル最近ノ外國側放送ニ一矢ヲ酬ヒル」趣旨ノ社說ヲ出サシメ同盟ヲシテ「キヤリー」セシメテハ如何カト存ス何分ノ御處置ヲ仰度シ

420

昭和14年1月5日　在香港田尻総領事より
有田外務大臣宛（電報）

汪兆銘の重慶離脱事情に関する沈崧内話

香　港　1月5日後発
本　省　1月5日夜着
第一九號（極祕）

汪[1]精衛ノ近親沈崧ノ戸根木ニ對スル内話要領左ノ通リ

一、汪ハ客年高宗武カ個人トシテ渡日シ日本側ニ於テ蔣介石ノ下野ヲ絕對條件トシ居ル由報告ヲ受ケタルモ萬一日本側ノ壓力ニ依リ蔣ヲ下野セシメンカ中央軍ヲシテ共產黨側ニ走ラシメ眞ノ平和ノ實現ヲ期待シ難シト認メ一時和平運動ヲ中止セシカ其ノ後前途ノ見透ハ共產黨ノ跋扈アルノミニテ中國赤化ノ憂深シトシ十一月ニ入リ各同志ニ平和工作ノ必要ヲ說ク一方日本側ニ對シ根本方針ノ明示ヲ衷心ヨリ欲シ居ル旨申越セルカ同中旬來香セル曾仲鳴ヲ通シ戰禍ニ苦シム民衆ヲ赤化ヨリ救フ爲例ヘ漢奸ノ汚名ヲ蒙ルトモ憂國ノ識者ニ先ンシ自己ノ主義主張ヲ忠實ニ表現スルヲ必要ト認メ近ク重慶ヲ立退クコトニ決意シタル旨竝ニ右ハ日本側トハ何等ノ關係ナク其ノ同情ヲ得ルト否トハ別問題ナル旨内報越セリ

二、[2]汪今回ノ擧ハ專ラ中國人ノ立場ニ於テ和平救民ノ純情ヨリ出テタルモノニシテ蔣介石等ニ對シ何等ノ非議ヲ加ヘス一ニ同憂ノ士ヲ反省鼓舞シテ周圍ヨリ蔣ノ自覺ヲ促シ已ムヲ得サレハ内部ノ分化ヲ來シメントスルニ在リ從テ之ニ對シ日本側カ無暗ニ讃辭ヲ呈シ或ハ聯繫アルカ如キ

宣傳ヲ爲サハ一般ヨリ傀儡又ハ漢奸ノ言トシテ冷笑看過セラレ殊ニ前線ノ將領ニ惡印象ヲ與フルコトトナリ汪ノ企圖ハ失敗シ支那ハ愈々赤化スル外ナカルヘシ

三、汪蔣間ニ何等ノ默契又ハ了解ナカリシコトハ當初重慶ヨリ大公報及黨部代表陳素等ニ對シ汪ノ態度判明迄一切ノ批評ヲ差控フルヘキ旨電命シタルニ顧ミ明カナリ目下ノ蔣ノ汪ニ對スル態度ハ頗ル惡辣ナルモ孫科及共產黨ハ更ニ甚シキモノアリテ汪ハ言動ヲ愼重ニシ警戒中ナルカ二週間内ニハ一應來香シ聲明ノ反響ヲ見極メ對策ヲ構(講カ)スル筈ナリ其ノ上自分ハ重大使命ヲ帶ヒ廣西、長沙方面前線將領トノ聯絡ニ出向クヘシ

四(3)、汪カ最モ懸念シ居ル點ハ將來和平回復ト同時ニ日本側カ全般的撤兵ヲ實施シ得ルヤ否ヤニ在リ尚支那人トシテハ北支、中支或ハ西南ト言フカ如ク人爲的領域ヲ國内ニ設クルコトニ對シ多大ノ不審ヲ感シ居レリ

五、龍雲ノ態度ハ兎角ノ評アルモ汪カ昆明着ノ翌日無事ニ河内ニ赴キタル一事ヲ以テ總テヲ察知シ得ヘシ龍ハ省内手兵手薄ノ爲蔣ヨリ制壓ヲ加ヘラルルヲ極度ニ恐レ居ルモ汪ヲ信賴シ居ル四川將領トハ一脈ノ聯絡アル筈ナリ又西南ニハ汪多年ノ友タル張發奎、薛岳アリ白崇禧モ廣西ヲ侵サレサル限リ問題ナカルヘシ一方蔣介石ハ張薛ノ兵力增大ヲ喜ハス又白ハ薛ト不仲ナルノミナラス最近ハ余漢謀ヲ誘ヒ蔣ヲシテ其ノ信任セル李漢魂ノ兵權ヲ鄧龍光ニ引渡サシメ李ヲ省政府主席ニ祭込ミ軍界ヨリ遠カラシメタル事實アリ兎ニ角何レモ利害ニ依テ行動シ必スシモ蔣ノ思フ如クニハ行カサル内情ナリ

上海、北京へ轉電アリタシ

421

昭和14年1月7日　有田外務大臣より
在ハノイ鈴木總領事宛（電報）

汪側より申し出ある場合には保護すべき旨訓令

本　省　1月7日後8時55分発

第二號（極祕、至急、館長符號扱）

汪精衞側ヨリ申出アリタル場合ハ可然同人保護ノ措置ヲ採リヤラルル樣致シ度

422

昭和14年1月8日　在香港田尻總領事より
有田外務大臣宛（電報）

汪兆銘の離脱を契機とする重慶政権の全面崩壊に向けた準備工作の必要性につき意見具申

香　港　1月8日後発
本　省　1月8日夜着

第三四號（極祕）

汪[1]ノ聲明ハ陳公博、顧孟餘ノ反對ニ拘ラス梅子（思カ）平、高宗武等ニテ發表シタル爲汪ノ黨籍剝奪トナリ計畫ニ蹉跌ヲ來セルノミナラス（往電第一一號冒頭參照）河內ニ於ケル佛官憲ノ監視强マリ汪ノ行動ヲ不自由ナラシメツツアリトノ聞込モアル處一兩日來ノ新聞ハ多少筆法ヲ軟ラケ來レルト共ニ（重慶ヨリ反響ヲ過大ナラシメサル爲緩和ノ指令來レルニ依ル由ノ諜報アリ）高ノ書面聯絡ニ依ルニ聲明ニ對シ內密共鳴スル者モ相當アル模樣ニテ別ノ諜報ニ依ルモ華僑方面ニハ特ニ好感ヲ以テ迎ヘラレ居ルカ如ク當地新聞ハ南華日報ヲ除キテハ未タ積極的ニ汪ヲ支持スル記事ヲ揭クルモノナク今暫ク波紋ノ靜マルヲ俟ツニアラサレハ此ノ方面ノ工作ハ施スニ由ナキモノト認メラル一方雲南、四川ノ擧兵ニ付テハ內面的ニ相當ノ聯絡及多少ノ動キアルハ事實ナルモ詳細ハ明カナラス又今ヤ重慶側ノ監視嚴重ニシテ遽ニ其ノ實現ヲ期待シ得ヘクモアラス假ニ昆明ノ爆擊等ニ依リ彼等ノ旗上ケヲ說得（?）不取敢之ヲ實行セシメ得タトシテモ果シテ永續キスヘキヤ多大ノ疑問トセラレ目下ノ段階ニ於テハ汪ノ重慶脫出及之ニ伴フ內部陣營ノ動搖ノ程度ニテ一應滿足シツツ而モ密ニ次ニ來ルヘキ全面的崩壞ノ爲ノ準備工作ヲ續クルヲ要シ此ノ際焦ルコトハ禁物ナリト認メラル

右[2]工作トシテハ㈠累次電報ノ通リ重慶ノ內部分裂ヲ目標トスル諸宣傳ノ外孔祥熙等和平論者ニ對シ呼掛ケルカ如キ方法モアルヘク（最近喬輔三カ焦リ氣味ナルニ對シ孔一派カ愚圖ツイテ居レハ一番後ニ取殘サルルコトトナルヘキ趣旨ニテ應接シツツアリ）㈡汪ノ來香ヲ俟チ計畫ヲ詳細聞出シ其ノ實現ノ可能性ヲ檢討ノ上政治及軍事上之ニ對應スル手ヲ打ツコトモ必要ナルヘク又㈢龍雲或ハ李濟深等ノ實力派ヨリ接近シ來ル者モ多少アルヲ以テ彼等ヲ適當ニ善導シ汪ノ外廓ヲ補强擴大スルニ努ムル要モアルヘク或ハ假令小部分ナリトモ廣東軍ノ分裂方モ試ミル價値モアルヘク是等ハ何レモ折角手ヲ染メ居ルモ龍派ノ考ノ如キハ別トシテ雲ヲ摑ム程度ヲ出テス又國民黨嫌ノ李カ果シテ汪トノ協力ヲ肯スルヤモ甚タ疑ハシク何レモオイソレトハ進捗スヘシトモ

考ヘラレサル現狀ナリ但シ未タ前途ヲ悲觀スルニ及ハサル次第ニテ委細ハ近ク歸朝ノ筈ナル今井中佐ヨリ何レ御聽取相成ルコトト存スルモ一應ノ見透及差當リノ當方工作要領御參考迄電報ス

御氣付ノ點ハ大少トナク御指示ヲ俟ツ

上海ヘ轉電アリタシ

423　昭和14年1月10日　在上海三浦総領事より有田外務大臣宛（電報）

汪兆銘離脱問題に関する梁鴻志ら維新政府要人の見解について

上　海　1月10日後発
本　省　1月10日夜着

第四七號（極祕）

汪[1]兆銘ノ脫出ニ關シ維新政府側ニ於テハ脫出前後ノ眞相判明セサル點アルト共ニ日本側ノ本件取扱方針ヲ承知セサル爲政府トシテハ此ノ際何等ノ表示モ爲シ難ク暫ク事態ノ推移ヲ靜觀スル外ナシト稱シ沈默ヲ守リツツアリ從テ情報ノ蒐集等ニモ餘リ熱心ナラサル模樣ナルカ本件ニ關シ梁鴻志及陳群カ九日淸水ニ內話スル所左ノ通リ

一、梁鴻志

汪脫出ノ當初ハ蔣介石ト或程度ノ諒解アリタルモノト察セラルルカ脫出後ノ汪ノ行動ハ果シテ如何ナル程度ニ蔣ト聯絡アルヤ判斷ニ苦シム所ナリ汪カ若シ今後西南方面ニ於テ一新政權ヲ組織シ親日防共ヲ標榜スルニ於テハ當然我カ聯合委員會ノ一單位トシテ加入シ來ルヘキ筈ニテ右ハ素ヨリ吾人ノ歡迎スル所ナリ將又日本側ニ於テ此ノ際汪ヲ利用シ聯[?]支新政權ノ首領ト爲シ時局ノ收拾ニ當ラシメントノ意嚮ナラハ臨時維新兩政府トノ關係其ノ他ニ付愼重ナル考慮ヲ加ヘサルヘカラス何レニスルモ事態ノ明瞭トナル迄我々ハ輕々シク動キ得サル次第ナリ

二、[2]陳群

汪ハ國民黨ヲ離レテ個人ノ力ニテ政治運動ヲ爲スモ到底成功セサルヘク恐ラク臨時維新兩政府程度ノモノヲ作リ得ルヤ否ヤモ覺束ナシ之ニ反シ若シ汪カ國民黨元老ノ地位ヲ利用シ孫文主義ノ中ヨリ大亞細亞主義其ノ他ノ親日的思想ヲ揭ケテ旗擧スレハ同人ノ閱歷聲望ヨリ見テ少クモ國民黨ノ半數ヲ集メ得ヘク其ノ他ノ中立穩健派モ擧ツ

テ之ヲ支持スルニ至リ重慶切崩工作ニ成功スル望アルヘシ唯其ノ際ハ當然青天白日旗ヲ掲ケサルヘカラサル立場トナルヲ以テ爾後新政權合流ノ際國民黨及五色旗ト既設五色旗政權トノ調和ヲ如何ニスヘキヤノ重大問題ニ逢着スヘク此ノ點ハ日本側ニ於テモ充分研究スル必要アリ自分ハ國民黨方面ニハ多數ノ知己モアリ必要アラハ如何ナル方面ニ對シテモ聯絡ヲ取リ得ル立場ニ在ルモ如何センヘ日本側ノ方針判明セサル爲此ノ所暫ク袖手傍觀スル外途ナシ

北京、南京、香港へ轉電セリ

424　昭和14年1月13日　在上海三浦総領事より有田外務大臣宛（電報）

汪兆銘は近く渡欧予定との情報について

上　海　1月13日後発
本　省　1月13日夜着

第六三號

ＡＯカ申報ニ入リタル香港電（新聞ニ發表セラレス）トシテ內報スル所ニ依レハ汪派要人連ハ連日香港ニ於テ汪ノ出盧問題ニ付協議ヲ遂ケ居レルカ顧孟餘等ハ汪カ此ノ際出國渡歐スルコトカ先決問題ニシテ徐ニ獨逸等ニテ待機シ將來獨逸ノ斡旋ノ下ニ事態ノ有利ナル展開ヲ俟チ政界再出馬ノ機會ヲ待ツ方現下ノ情勢ニ鑑ミ比較的賢明ナル策ナリト主張シ居レルカ汪自身モ同意シ近ク渡歐ノ途ニ就クコトトナリタル趣ナリ

北京、天津、南京、漢口へ轉電セリ
香港へ轉電アリタシ

425　昭和14年1月14日　在香港田尻総領事より有田外務大臣宛（電報）

高宗武の訪日予定など汪派の今後の動きに関する観察報告

香　港　1月14日後発
本　省　1月14日夜着

第六二號（極祕、館長符號扱）

往電第三四號ニ關シ

共產派及汪ニ出シ抜カレタル方面ニ於テハ今後同人ノ身ノ振方ニ付當分外遊スル外ナカルヘシトノ宣傳ヲ爲シツツア

リ又汪ノ同情者中ニモ急激ナル時局ノ變化望マレス又當地ニ汪カ來ルモ河内以上ニ活動上拘束ヲ受クヘキヲ以テ(政廳ノ彼等一派ニ對スル監視嚴重トナレルカ二、三日前汪派カ救國和平以外ニハ他意ナキコトニ付懇談シ大體民政長官ノ諒解ヲ得タル趣ナリ)此ノ際ハ歐洲ニ赴キ支那ノ實情ヲ認識セシムルニ努ムルコト然ルヘシト眞面目ニ考ヘ居ル者モアル處高ノ書信ニ依レハ汪ハ河内ニテ手厚キ保護ヲ受ケ居リ何等危險ナク又今後ノ工作ニ付テハ目下當地同志間ニテ策ヲ練リ二十日頃河内ニ赴キ右ニ對スル汪ノ承認ヲ經タル上月末高自身之ヲ齎シ渡日スヘシトノコトナルカ

茲[2]ニ注意ヲ要スルハ彼等カ第二段階ニ入ル(卽チ實力派カ動キ出ス)前提トシテ我方カ今少シ何トカ積極的ニ軍事行動ヲ起スコトヲ強ク期待シ居ルコトニシテ尙之ト別口ニテ當方ニ接觸シ來ル實力派方面ノ者ニ於テモ斯ル口吻ヲ洩ス者アリ右後者ノ連中ハ汪ノ聲明カ早過キタル爲蔣ヲシテ態度ヲ愼重ナラシメ五中全會ニ於ケル共產黨重要提出案ハ恐ラク次期會議迄持越サレ重慶カ赤化セリト宣傳スルモ民衆ニ「ピン」ト響カヌコトトナルヘキヲ以テ愈日本ノ發動カ必要トナル譯ナリトノ觀察ヲ爲シツツアル處五中全會カ如何ナル經過ヲ辿ルヤ又汪派ノ具体的計畫ノ如何モ不明ナル今日(四五日中ニ高ト會見ノ結果ハ追電スヘシ)時局ノ動向ヲ豫測スルハ時期尙早ナルモ今後ノ我方局面指導上ノ資料トシテ冒頭往電補足旁右御參考迄

上海へ轉電アリタシ

426

昭和14年1月14日　在北京秋山大使館一等書記官より有田外務大臣宛(電報)

汪兆銘離脫問題に関する王克敏ら臨時政府要人の見解について

北　京　1月14日後発
本　省　1月14日夜着

第四五號(極祕扱)

汪精衞ノ脫出ニ關シ當方面支那側要人間ニハ一般ニ右ハ蔣介石トノ諒解ノ下ニ行ハレタリトノ觀測最モ有力ナル處王克敏及湯爾和ノ十三日原田ニ爲セル內話要領左ノ通リ御參考迄

一、王克敏

汪ノ脫出カ直接蔣ノ指金ニ依ルモノナリヤ否ヤハ疑問ノ

餘地アルモ少クトモ有力ナル仲介者ヲ介シテ或程度ノ諒解ノ下ニ爲サレタルモノト察セラルル處其ノ結果ハ早急ニ期待シ得ス今後相當ノ時日ヲ要スル次第ニシテ之カ爲ニハ蔣介石對共產黨ノ複雜ナル關係ノ清算ト西南各省ノ態度鮮明トナルコト先決問題ナルヘク目下ノ所反蔣態度ノ比較的明カナルハ蔣ノ爲最モ痛手(四、五十萬ノ大軍ヲ僅々十數萬ニ減セラレタリ)ヲ被リタル廣西ノミニシテ四川雲南等ハ未タ旗幟鮮明ナラス依テ日本側トシテハ此ノ際餘リ騷キ立ツルコトナク表面飽迄傍觀的態度ヲ持シ專ラ內面工作ヲ以テ汪ノ緣者ノ態度ヲ探ルコト得策ナリト思考ス

二、湯爾和

汪ノ脫出ハ蔣トノ間ニ完全ナル聯絡アリテ行ハレタルモノニシテ右ハ一種ノ煙幕彈トモ見ルヲ得ヘク之ニ依リテ日支兩國及諸列國ノ反響ヲ見ントスル一手段ニシテ一方蔣介石カ專ラ共產黨ノ勢力增大ヲ宣傳シ居ルモ蔣ハ猶五、六十萬ノ手兵ヲ擁シ共產黨ノ勢力トハ比較ニナラス他方蘇聯ノ武器援助モ左シタルコトナキモ蔣トシテハ從來ノ行懸上今直ニ對日妥協ヲ申出ツル譯ニモ行カス前記反響ヲ見送リツツ右宣傳ニ依リ全國的反共空氣ノ醞釀ヲ計リ適當ノ時期ニ一大「クーデター」ヲ敢行シ共產黨ヲ絕滅シテ之ヲ手土產トシテ日本ニ妥協ヲ求メントノ底意ナルヤニ察セラルル處支那ハ將ニ危篤ニ瀕セル病人ニシテ日本カ診斷ヲ誤リテ濫リニ投藥センカ遂ニハ死ニ至ラシムル惧アリ今暫ク絕對安靜ヲ保チ病狀ヲ見極メタル上ニテ有效適切ナル措置ヲ施サルルコト切望ニ堪エス尙右蔣側ノ計畫ニ對シ日本側トシテハ餘リ宣傳等ヲ爲サス蔣ヲシテ之カ實行ヲ容易ナラシムルコト望マシ云々

以上蔣側今後ノ出方ニ相當ノ機微ナル影響アルヘキニ付當分外部ニ發表セサル樣致度シ

在支各總領事へ轉電セリ

427

昭和14年1月18日　在上海三浦総領事より
有田外務大臣宛(電報)

汪離脱に日本側が関与したとの情報に関する周文彬内話

上　海　1月18日後発
本　省　1月19日前着

第一〇五號（極祕）
十八日周文彬ノ岩井ヘノ内話要領左ノ通リ
最近香港ヨリ來滬セル錢永銘使者ノ談ニ依レハ今回ノ汪脫出ノ裏ニハ日本側工作アリ今井中佐等香港ニテ活動シ居タルコトハ相當知レ渡リ居ル樣子ナリ一般ニ汪脫出迄ハ成功ト認メラレ居ルモ其ノ後ノ措置餘リ上出來トハ言ハレス日本側ニテ今少シク何トカ積極的援助出來サリシモノナリヤ折角事ヲ此處迄運ヒテ失敗ニ終ラシムルカ如キコトアランカ二度ト何人モ引出ニ應スル者ナカルヘシトノ感想ヲ一部ニテハ懷キ居ル者アル模樣ナリ云々（岩井ヨリ右ハ錢モ同樣ナル感想ヲ有シ居ルモノナリヤト問ヘルニ周ハ使者ノ口吻ニテハ勿論然ルヘシト答ヘタル由）
香港ヘ轉電セリ

428 沈崧提供の汪関係情報にはPLの略号を用いる旨報告

昭和14年1月20日　在香港田尻総領事より有田外務大臣宛（電報）

香　港　1月20日後発
本　省　1月20日夜着

第九四號（極祕）
沈崧ノ情報ハ今後PLノ略號ヲ以テ電報ス汪派ノ行動ニ關スル最モ信賴スヘキモノナリ
上海ヘ轉電セリ

429 汪兆銘が英独仏三国に査証発行を請求中との独国参事官情報について

昭和14年1月24日　有田外務大臣より在上海三浦総領事、在香港田尻総領事、在ハノイ鈴木総領事宛（電報）

本　省　1月24日後9時0分発

合第一六〇號（極祕）
二十四日在京獨逸大使館參事官歐亞局長ヲ來訪在上海獨逸代理大使ノ來電ニ依レハ目下汪兆銘ハ英獨佛三國ノ査證ヲ求メツツアリ右汪ノ歐洲行ハ蔣介石トモ了解アル由ニテ同行者ハ夫人及祕書ナル趣ヲ通報シ尚汪ノ渡歐時期ニ付テハ何等判明シ居ラサル旨内話セリ何等御參考迄

本電宛先、上海、香港、河内

430　昭和14年1月27日　在香港田尻総領事より有田外務大臣宛（電報）

日本側との内通者に対する高宗武の警戒に鑑みPL情報の厳重取扱いにつき注意喚起

香　港　1月27日後発
本　省　1月28日前着

第一一三號（極祕）

PLハ二十六日高宗武ヨリ同志ノ內何人カ他ニ日本側ト接觸スル者アリ其ノ供スル內部情報ハ頗ル詳細ヲ極メ高自身ノ日本側トノ折衝ニ何彼ト不利アル處右ハPLニアラスヤトノ質問ヲ受ケタル趣ニテPLハ之ヲ否定シ置キタルモ今後共PLノ姓名ヲ嚴祕ニ附シ情報ノ取扱方ニモ充分注意アリタキ旨申出テタリ

上海へ轉電アリタシ

431　昭和14年1月27日

東亜新秩序建設の観点より汪側の希望には同情的考慮を払うべしとの田尻香港総領事の見解

付記一　昭和十四年一月二十八日、東亜局第一課奥村事務官作成

汪兆銘工作に関する参謀本部今井中佐との会談要領

二　昭和十四年二月十六日、岩井副領事作成

汪兆銘工作に関する今井中佐との会談要領

（昭十四、一、二七）

汪精衛一件

田尻總領事トノ打合要領

亞、一、　奥村事務官

一月二十三日命ニ依リ上海ニ出張シ二十四及二十五ノ兩日香港ヨリ來滬セル田尻總領事ト對汪精衛工作ニ關シ打合ヲ遂ケタルカ其ノ要領左ノ通

一、田尻カ香港ニ於テ高宗武ニ最後ニ會見シタルハ一月十九日ナルカ其ノ際高ハ汪一派今後ノ行動ニ關スル計畫ハ同志ト協議ノ結果黨、政、軍ノ各事項ニ付一成案ヲ得ルニ至リ近ク來香ノ筈ナル汪ノ決裁ヲ經ルコトトナレリト述

ヘタリ、田尻ヨリ其ノ内容如何ヲ種々問ヒタルモ高ハ汪ノ決裁アル迄ハ申上ケ難シトテ多クヲ語ラス、只黨ニ付テハ汪一派カ依然國民黨トシテ行動スヘキヤ或ハ又「興中會」ノ如キモノヲ起スヤヲ考慮シ居リ、軍ニ付テハ張發奎、薛岳、李濟琛（深カ）等ト連絡アルコトヲ仄シ、政ニ付テハ西南政府ヲ樹立スルヤ將又直チニ南京ニ赴クヤノ考アリ等語リ、孰レニスルモ右計劃案ハ汪ノ決裁アラハ（當時汪ハ一月末又ハ二月初來香ノ豫定ナリキ）之ヲ携行シテ臺灣經由上京シ軍部（主任者參謀本部支那班今井中佐）ト打合ノ手筈ト爲リ居レリト述ヘタリ

二、依テ高宗武上京ノ際ハ外務本省ニ於テ右計劃案ニ對シ充分檢討ヲ加ヘラレ所要ノ措置ヲ講セラルル樣致度シトノ田尻ノ意見ナリ蓋シ中央ニ於テハ汪ノ重慶脫出後現在ニ至ル迄ニ現ハレタル客觀的情勢ヨリ判斷シテ今後之ニ多キヲ期待シ難シトノ見方アルヤモ知レサル處、對汪工作カ所期ノ效果ヲ發揮シ得ヘキヤ否ヤハ全ク今後ノ施策如何ニ懸ルモノト判斷セラル、汪ノ脫出ニハ蔣介石トノ默契アリトノ說ニ對シテハ愼重ニ探索シタルモ其ノ事實ヲ認メ得ス却テ汪ハ相當ノ決心ヲ以テ脫離ヲ決行シタルモノナルカ、之ヲ袖手傍觀スレハ龍頭蛇尾ニ終ルヘキ處アルニ反シ汪今後ノ行動ト之ニ呼應スル我方ノ工作ト相俟テハ蔣政權ニ與ヘ得ヘキ打擊ノ可能性ハ相當大ナリト見ルヘク、一方汪ノ閱歷手腕及其ノ一派ノ人物ヨリ見テ日支時局ノ收拾、東亞新秩序ノ建設上最モ有力ナル要素タルヲ失ハス、卽チ對汪工作ハ單ニ軍ノ謀略トシテ之ヲ見送ルカ如キコト無ク外務當局トシテモ對支國策ノ一端トシテ積極的ニ之ヲ推進セラレンコトヲ希望ス

從テ高宗武カ近ク携行スヘキ前記計劃案ハ軍側ノ所期スルカ如キ事態ノ進展ヲ見ルモノトスレハ今後ノ我對支施措上ノ一基礎的要綱トモナルヘキニ鑑ミ該案ニ對シテハ外務側ニ於テ愼重ニ檢討ヲ加ヘ軍側トモ緊密ニ連絡シテ今後ノ工作ニ付遺憾ナキヲ期セラルル樣致度

三、汪一派ニ於テハ日本側ハ廣東及武漢陷落以來殆ト軍事行動ヲ停止シ或方面ニ於テハ兵ノ撤收迄行ヒ居ル如キ狀態ナルカ、今後汪ノ工作ヲ援助スル爲、殊ニ實力派ノ動キヲ促進スル爲、何等カノ積極的軍事行動ニ出テラレンコトヲ强ク期待シ居レリ

（此ノ點ニ付參謀本部今井中佐ハ或種ノ用意アルコトヲ

（欄外記入）

内話セルノミナラス一月二十五日中支派遣軍司令部參謀高橋大佐（政務主任）モ近ク何等軍事行動開始方考慮中ナル旨内話セリ）

四、更ニ汪一派トシテハ愈々積極的活動ニ乘出ス場合ニモ所謂漢奸ノ汚名ヲ着セラルルカ如キコト無カランコトヲ強ク希望シ居レリ、卽チ單ニ汪ノ脫出自身カ日本側ノ謀略ニ乘セラレタルモノトノ說ヲ流布セラルルカ如キコト無キヲ望ムノミナラス、今後ノ工作（例ヘハ政權樹立）ニ當リテモ日本側カ其ノ屢次ノ高邁ナル聲明ニ卽セサルカ如キ態度（例ヘハ多數日系官吏ノ配置）ニ出テラレサルコトヲ望ムトノ意ナリ

田尻ノ意見トシテハ右汪側ノ希望ハ東亞新秩序建設ノ觀點ヨリモ之ニ同情的考慮ヲ拂フコト可然、從テ此ノ際客年十一月三十日御前會議決定「日支新關係調整方針」ニ付テモ今一應根本的檢討ヲ爲スコト有益ナルヘシ、卽チ右方針ニ附屬スル「日支新關係調整要項」ハ該方針實施上ノ準則ヲ示スモノニシテ全然更改ノ餘地無キモノニハ非ス而シテ該要項中ニハ必スシモ新ナル事態ニ卽セサルモノナキヤ再檢ヲ加ヘラレ度、右ハ前顯汪一派ノ計劃案ニ對スル檢討ト密ニ聯關セシメラレ（例ヘハ國民黨、三民主義等ノ存在ヲ許スヤ否ヤノ問題）此ノ際根本問題ニ關スル省議ヲ御決定相成、之ニ基キ軍側ニ對スル積極的協力及指導ニ當ラレンコトヲ希望ス

附　記

㈠重慶側ノ汪ニ對スル懷柔策及汪派切崩工作ハ相當活潑ニ行ハレ居ルモノノ如ク、又一方英國側カ重慶側ノ意ヲ承ケ又ハ獨特ノ二股政策ニ基キ汪派ニ働キ掛クルコトモ容易ニ想像セラル、我方ノ對汪工作上警戒ヲ要スル點ナルヘシ

㈡香港ニ於ケル汪派ハ陳璧君ヲ中心トシ顧孟餘、陳公博、高宗武、梅思平等アリ、高宗武專ラ我方トノ連絡ニ當リ居リ、我方ハ今井中佐ノ連絡係一田中佐（高橋ト假名ス）アリ滿鐵社員西義顯（事變前迄滿鐵南京出張所長タリ、當時吳震脩ト盛ニ往復シタル他、知日派要人ト往來シ居タリ）其ノ中ヲ大イニ奔走シ居レリ、近ク高宗武東上ニ當リテハ西モ同行ノ筈ナリ

㈢一月二十四日上海ニ於テ田尻、奧村ト會食セル津田靜枝中將ハ汪利用ノ將來性如何トノ漠然タル質問ニ對シ汪ナ

ラハ王克敏モ梁鴻志モ異存無カルヘシトテ相當期待ヲ掛ケ然ル可キヤノ口吻ナリキ

（欄外記入）

條件ヲ更ニ緩和セラレタシト云フ意ナリトセハ不同意

（付記一）

汪精衛工作一件

（昭和一四、一、二八、亞一、奥村記）

本日參謀本部支那班今井中佐ト會談セル要領左ノ通

一、先ツ奥村ヨリ上海ニ於ケル田尻トノ打合要領ヲ内話シタルニ對シ今井ヨリ「田尻君ハ此ノ工作ノ將來ヲ如何ニ見透シ居ルヤ、ヤッテモ駄目タト云フ感シヲ抱キ居ルニ非スヤ」ト問ヒタルニ付田尻ノ積極論ヲ披露シタル處今井ハ大ニ安心ノ態ナリキ

二、汪工作ノ爲日本側カ今後打ツヘキ手ニ付テハ外務省ニ於テモ十分御研究ノ上大臣ニモ宜ク御話願ヒ置キ度シト云ヘリ

三、汪側ノ要望セル日本ノ積極的軍事行動ニ付軍側ハ如何ナル考ナリヤトノ問ニ對シ今井ハ夫ハヤル積リニテ其ノ爲自分ハ東京ニ居ルモノナリ内容ハ軍令ノ機密ナルヲ以テ申上ケ兼ヌルモ、弗々現ハレ來ルヘシト述ヘタリ

四、汪工作ニ付テハ陸軍部内ニ於テ反對アリトノ説モ行ハレ居ル處眞相如何ト問ヒタルニ對シ今井ハ中央ノ關スル限リ絶對ナシ、板垣大臣ハ本件工作ノ最モ熱心ナル支持者ニシテ陸軍省ニ於テハ軍務、軍事兩課長、參謀本部ニ於テハ作戰、謀略兩課長全然同意ニシテ自分トシテハ要所要所ヲ完全ニ抑ヘアル積リナリ、仰々本件工作ハ和知工作（相當ノ金ヲ用ヒテ蕭振瀛ヲ通シ西南派ニ働キ掛ケントスル工作）案ニ對シ軍首腦部ニ於テ全然乘氣ナカリシガ其ノ一週間位後ニ偶然自分（今井）カ此ノ案ヲ持出シタルニ對シ軍事課長率先贊意ヲ表シ軍首腦部ニ於テ夫々責任ヲ分擔シ乘出サント決意セル經緯アリシモノナリト述ヘタリ（尚土肥原中將邊リニ汪精衛工作ニ對スル難色アルヤモ知レサルカ吳佩孚等擔出シテモ大シタコトハ出來サルヘシ、要スルニ古キ支那通ノ觀念ヲ以テシテハ新シキ秩序ヲ建設スルコト不可能ナリト附言セリ）

（欄外記入）

五、最近香港ニ於ケル連絡者一田中佐ニ對シ汪派ナリト稱シ

連絡シ來ル支那人アリ內情ヲ探ラレテハ困ルニ付高宗武ト打合セノ上高ノ口利キニ依ラサル支那人ニハ一切會ハヌコトニセリ、又土肥原機關ノ者ナリト稱シテ汪一派ニ連絡ヲ取リ來ル日本人モアル由ニテ部內、部外共ニ却々警戒ヲ要スル狀態ナリ、外務省側ニ於テモ此ノ點ハ御留意願ヒ度シト今井ハ語レリ

六、尙今井カ極祕トシテ內話セル所ニ依レハ客年上海ニ於テ高宗武、梅思平ト影佐トノ間ニ調印セル文書(十一月二十八日五相會議決定ノ基礎トナレルモノ)ニハ祕密ノ附屬文書アリ、其ノ趣旨ハ日滿支共同シテ東亞ノ覇權ヲ握ルコト、ソレカ爲ニハ先ツ第一ニ協同シテ蘇聯ニ對シ思想的及兵力的ニ共同防衞スルコトヲ規定シ、次ニ英國ヲ排擊スルコトヲ含ムモノナルカ、對蘇工作進展中ハ對英外交關係ヲ圓滑ナラシメ置ク要アリ隨テ英國排擊ノ工作ハ將來行フヘキモノトシ該文書ノ中ニハ英國トハ明記シ非サル次第ナリ云々。

(欄外記入)

和知工作愈々表面化ノ形勢ニアリ當方トシテハ兩工作ノ具体的發展ヲ睨ミ大所高所ヨリ善處シタキ意向ナリ

(付記二)

汪問題ニ對スル今井中佐トノ會談要領

(岩井副領事)

二月十六日午后今井中佐ト參謀本部ニ會談ス

要旨左ノ通リ

問(本官)、其ノ後汪精衞ノ動靜如何

答(今井)、佛官憲ノ保護ヲ受ケ安全ニ居住シ居レリ、昨十五日歸京セル一田中佐(香港ニ於ケル先方トノ連絡者)ノ報告ニ依レバ高宗武近ク(廿日過ギ)密ニ來朝ノ筈、外遊說アルモ絕對其ノコトナシト信ズ、參謀本部上層部ニ於テモ依然蔣汪關係アルヤニ疑ヒ居ルモノアリ、外遊說ヲ大分氣ニシ居リ困ツタモノナリ、尤モ蔣介石ヨリ旅費トシテ五萬磅ヲ貰ヒタルハ事實ナリ右ハ先方ノ言分ニ依レバ貰ハザレバ暗殺セラルル虞アリタルガ爲ニシテ之ニ依リ毫モ汪ノ心境ニハ變化ナシ

問、(蔣汪無關係ニ對スル本官ノ所信ヲ述ベ今井中佐ノ信念ニ同感ヲ表シタル後)

（欄外記入一）

汪今後ノ利用ニ付逼迫セル國内情勢等考慮スレバ既成新政權ハ勿論出馬ノ吳佩孚等ヲ成ル可ク早目ニ打ツテ一丸トスル中央政權樹立ノ必要アリト思フガ其ノ後具体計画アリヤ

答、自分モ同感ナリ、然シ當初ノ計画通リノ廣東ニ落付ク案ハ考ヘ居ラズ又吳佩孚工作ハ旨ク運ビ居ラズ、王克敏ハ吳デハ困ルガ汪出馬セバ自分ハ野ニ下ツテ財政方面ヲ擔任シ又人不足ナレバ自分ノ人ヲ集メテ積極援助スベシト誠意ヲ披瀝シ速ニ汪ガ南京ニ來リ時局收拾ニ當ランコトヲ希望シ居ルモ維新政府ノ梁鴻志ハ異ナリ、纏メルニハ前途相當困難アル一方汪亦表面ニ立ツノハ十月トユックリ構ヘ居ル由ナリ、何レニセヨ高ノ來朝ヲ待ツテ先方ノ腹案聞キタル上當方ノ對策決定ノ予定ナリ、先方ノ實力派ニ對スル工作ハ當初ヨリノ予測通リ仲々旨ク運ビ居ラザル模様ナリ、右ハ軍隊ノ向背ガ一政治家ノ進退ト比較ニナラヌ程困難ナル實情アル爲ナリ、尤モ先方ニテハ實力派ノ切崩ニ成功スルモノト確信シ居ル模様ニテ自分（今井中佐）香港滯在中モ其ノ點ノ疑問ニ付質シタルニ先方ニテハ信用サレネバ仕方ナシト憤慨シ居タリ

（欄外記入二）

問、實力派殊ニ龍雲ヲ動カスニハ矢張リ或ル種ノ實力的援助ヲ爲ス必要アリト思フガ其ノ用意アリヤ

答、龍雲ヲ直接援助スル譯ニハ到底行カザル一方龍雲ノ兵ハ大部分前線ニ出拂ヒ手兵目下僅カニ一萬二三千ニ過ギズ大分淋シガリ居ル模様ナリ

問、雲南ニ進兵スルハ不可能トスルモ廣西ニ進兵スレバ龍雲モ決心シ易クナルト思フガ如何

答、自分モ右様考ヘ居レルモ對李白ノ工作ヲヤツテ居ル側ニテ右ハ却テ廣西ニ中央軍ヲ引入レル結果トナリ面白カラズトテ反對アリ仲々實行出來ズ、然シ實力的援助ヲスル必要ハ考ヘ居リ實ハ今回ノ海南島出兵モ其ノ效果ノ有無ハ別トシテ多少ソウシタ意味モ含マレ居ル次第ナリ（現地ニテハ北海ニ揚陸ヲ主張シ居タルガ意味ナケレバ海南島ニセリ）

問（今井中佐）、重慶政權内部ニ和平氣分横溢シ居レリトノ情報アルガ如何、孔祥熙側ノ動キモ其ノ一ツノ現ハレト思フガ如何

答（岩井）、小生ノ得タル情報ニテハ其ノ反對ナリ（トテ昨十五日東亞局ニテ御話セシ五中全會當時ノ蔣ノ態度、徹

底抗日ノ緊張シタル空氣ヲ傳ヘルト共ニ（國共合作前途ニ付テモ質問アリタルヲ以テ）國共合作ハ抗戰ヲ標榜スル以上益々強化セラルベシトノ見解ヲ述ベ更ニ蔣個人ヨリ言ヘバ依然和戰兩面ノ構ヘヲ取リ居ルコトハ疑ナク孔ノ和平策動モ要ハ汪ヨリモ好條件ニテ日本側ト妥協センノ意圖アルモノト見ラルル旨述ベ置キタリ）

尙張公權ノ態度ニ付キ今井氏ヨリ質問アリ、汪ガ昆明脫出ノ際張ニ於テ援助シタリトノ相當確實ナル情報アリ又張ハ例ノ汪ニ響應、重慶中央日報ニ共產黨排擊ノ論文ヲ揭載セル國社黨總裁張君勵ト兄弟ノ間柄ノコトニモアリ汪トモ一脈相通ズルモノアルモ現狀ニ於テハ難カシカルベシト答ヘタルニ、今井氏ニ於テ實ハ張ノ子供目下本邦ニ留學中ニテ自分（張ノ子供）ガ奥地ニ出掛ケテ親父（張公權）ヲ呼ンデ來ルト稱シ居ルモ自分（今井氏）モ到底物ニナラズト考ヘ居ル旨述ベタリ

（高來朝后再會ヲ約シテ別レタリ）

（欄外記入一）

軍ハ未タ具体的ニハ考ヘ居ラサルカ如シ

（欄外記入二）

汪ハ南京乘込ミヲ考ヘ居ル次第ナリヤ

編　注　「十月ナラユックリニアラス」との書き込みあり。

432

昭和14年2月7日　在ハノイ鈴木総領事より有田外務大臣宛（電報）

汪兆銘との極秘会見実施の是非につき請訓

ハノイ　2月7日後発
本　省　2月7日夜着

第三〇號（極祕、館長符號扱）

汪兆銘西貢經由外遊スル旨當地新聞ニ報スル向アリタルニ依リ本官四日政務局長「グランジヤン」ヲ往訪右ヲ確メタル處汪ハ旣ニ當市ニ家屋二軒ヲ借入レ居リ當分ハ動カサル旨語レリ

又諜報ニ依レハ二週間前蔣ノ密使香港ヨリ當地ニ來リテ汪ト會見セル事實アル模樣ナルカ右ハ宋子文ナリシコト凡ソ確實ナルカ如シ

尙汪ハ外人側トノ會見ヲ好マス殊ニ我方トハ極メテ「デリ

ケート」ナル關係モアリ小官トノ會見ヲ希望セサルヤモ知レサルモ目下當方ニ於テハ機會アラハ極祕裡會見方愼重考究中ナルニ付テハ本省ニ於テ何等御氣付ノ點乃至中央ニ於テ汪ニ對スル意圖アラハ本官心得迄ニ御內示相成度シ

北京、上海へ轉電アリタシ

433

昭和14年2月10日　有田外務大臣より在ハノイ鈴木総領事宛（電報）

汪兆銘との関係機微につき接触差し控え方回訓

本　省　2月10日後9時45分発

第一三號（極祕、館長符號扱）

貴電第三〇號ニ關シ

目下汪ノ地位カ各方面トノ關係ニ於テ極メテ機微ナルモノアルコト御推察ノ通ニシテ殊ニ貴地ニ於テ我方カ汪ト直接ノ接觸ヲ試ミルコトハ不測ノ餘波ヲ生スル虞モアルヤニ認メラルルニ付テハ貴電ノ次第ハアルモ御來示ノ如キ措置ハ此ノ際一應差控ヘラルルコトト致度

434

昭和14年2月17日

汪兆銘と高宗武との協議結果等に関する田尻香港総領事と参謀本部今井中佐との会談要旨

付　記　昭和十四年二月、參謀本部今井中佐作成「渡邊工作（第二期計畫）」

汪精衞問題　（田尻記）

二月十七日午後今井ト會談ス

一、香港市田（一カ）ハ河內ヨリ八日歸香セル高宗武ト會見ノ上十四日着京シタルカ高ハ香港ノ幕僚ノ樹テタル案ト汪ノ意見トニ相當ノ相違アリ五日間討議ノ結果大体意見接近セルモ未タ書物ニシテ無ク詳細ハ上京ノ際直接話シタシトテ多クヲ語ラス唯大要トシテ政治問題ハ南京ニナルヘク速ニ中央政府ヲ樹立シ度キコト、軍事ハ龍雲、四川軍、李漢魂等ト連絡付キ出シ閻錫山ニモ代表ヲ送リアルモ龍ノ軍隊モ雲南ニハ一萬七千位シカ居ラス其ノ他ノ者モ未タ眞實當ニハナラス結局實力派カ動キ出スニハ時日ヲ要スル見込ナルコト、黨務ハ別箇ノ國民黨ヲ組織シ度キコト等ヲ語リ從テ近ク具体的ニ相當大キナ動キヲ見ル可能性

少ク動キヲ見セル見透シ樹ツ時ハ汪カ再度聲明ヲ發スル
コトトナルヘシ尚夫迄ニ日本ヨリ財政(二億圓)軍略上ノ
援助ヲ得度キコトヲ繰返シ語レル由
一、右ニ關シ今井ハ政治問題ハ假令廣東ノ一廓ナリトモ先ヅ
彼等ノ地盤ヲ作ラセル要アリ之ナクシテ南京ニ早急ニ乘
出シ來ルコトハサセ度クナシ又側面ヨリ廣東省方面ノ實
力派ノ寢返リ謀略ヲ工作スル要アリ尚又重慶ヨリ更ニ引
抜キヲヤル必要アリト考ヘ居ル旨ヲ述ヘタリ
一、對李濟深工作ハ和知カ主宰シ居リ特別委員會工作費一部
ノ使用權ヲ與ヘラレタルカ目下同人ハ北京ニ在リ、同工
作ニハ左シテ期待シ居ラストノ話ナリ(シカ右ハ小生ノ
見ル所モ同様ニシテ領事館側ノ工作モ進展シ居ラス)
一、高宗武ハ二十一日長崎着二十三日湯ヶ原ニ連レ來リ犬養
健、西義顯、伊藤義男ヲツケ置キ且連絡ノ任ニ當ラシム
ル筈ニテ參謀本部員等ハ同地ヘハ行カサル考ナリ尚約十
日間位ニテ日本ヲ去ラス方世間ノ視聽ヲ引カスシテ濟ム
ヘシト考ヘ居ル由ナリ　以上

(欄外記入)

(欄外記入)

以下特ニ極祕ニ願タシ

(付　記)

昭和十四年二月

渡邊工作(第二期計畫)

汪ト高トノ交涉情況

高ハ二月一日河內着

一日ヨリ五日迄毎日七、八時間討議ス

初メノ三日間ハ汪ヨリ高ニ對シ

1、一般ノ情況判斷

2、右ニ基キ

「汪自身立ツ事ガ國家、民族ヲ救フ所以ナリヤ否ヤ」

ニ關スル檢討

3、四日目ニ汪自身ノ考ヲ述ベ兩人ニテ檢討

(高ヲ中心トシテ考ヘ居タル事ト隨分大ナル開キアリ

タルガ如シ)

協議案ノ概要

第一案　日本ト蔣介石トノ妥協

此案ガ時局收拾上最適ト日本側ガ認ムルナラバ是ニテモ

ヨシ、自分ハ蔣介石トハ政治的ニ事ヲ共ニスル能ハサル
モ個人トシテ最善ノ努力ト援助トヲナスベシ
第二案　王克敏、梁鴻志、吳佩孚其ノ他ノ實力者ヲ以テ支
那ノ統一ニ當ラシムル事ヲ最善ト認ムルナラバ自分ハ野
ニアリテ極力之ヲ援助スベシ
第三案　汪兆銘ヲ以テ時局收拾ノ最適任者ト日本側ニ於テ
認ムルナラバ左ノ條件ヲ方針トシテ善處スベシ
一、反共救國同盟會ノ組織
a、國民黨之ヲ提唱スルモ、苟モ反共救國ヲ標榜スル
凡ユル團體、個人ヲ抱擁ス
b、民族國家再建ノ政治運動、軍事ノ再建設ハ全部同
盟會ガ之ヲ行フ軍事建設ノ目標ハ十二ケ師團トシ師
團編制ノ爲ニハ從來ノ部隊ヨリ再編成スルモノトス
c、日本軍ノ占領地域、未占領地域ヲ通ジテ要衝ニ支
部ヲ組織ス
被占領地域ニ於ケル支部ハ差當リ漢口、廣東トス
二、再聲明
a、日本軍ガ西安、宜昌、南寧ニ迫リタル時再聲明ヲ
行フ
聲明ノ主旨ハ
從來ノ聲明ガ蔣介石ニ對シ和平ヲ提案セル形式ナ
リシニ對シ本聲明ハ汪自身敢然トシテ時局收拾和
平實現ノ當事者ナルコトヲ宣明ス
（時期ハ日本軍ノ作戰ニ關係スル處大ナルモ四月
中旬頃若クハ五月頃）
b、續イテ雲南ニ於テ龍雲、態度表明ス
c、次テ西南諸將ヲシテ呼應シテ通電ヲ發セシム
三、日本ノ責任者ト會見シテ共同宣言ヲ發ス
a、宣言ノ內容ハ十二月二十二日及二十九日附兩聲明
ノ再確認其ノ他
b、同盟會ノ運動ヲ表面化ス
四、中央政府ノ樹立
a、双十節ヲ期シ南京ニ新國民政府ヲ組織シ同盟會ヲ
解体ス
b、臨時、維新、兩政府ヲ卽時解消シ其ノ人員ハ新中
央政府機構ニ吸收再生セシム
c、新國民政府ハ飽ク迄孫文ノ遺髮ヲ繼グ意味ニ於テ
修正三民主義ヲ遵奉ス

d、平等、對等ヲ前提トシテ日滿トノ完全ナル提携卽チ日滿支協同体ヲ具体化ス
e、合理的ナル國際關係ノ恢復
五、資金　二億　日本ヨリ借款ス
主トシテ中央及北支ニテ使用シ得ル如ク其地域ニ應ジ法幣若クハ圓
汪ト日本側責任者會見ノ際協議スソレ迄ハ月三百萬圓位
六、軍事計畫案
七、財界人ノ引入レ
目下着々實施中ニシテ逐次連絡取レツツアリ
八、其ノ他
汪ニ對スル外國側ノ工作
1、英國
イ、香港政廳ハ積極的ナラザルモ汪ノ聲明ヲ充分了解好意ヲ以テ保護スル旨言明セリ
ロ、未ダ直接連絡者ノ申込ミナシアラズ
2、佛國
イ、佛印ニテハ充分ニ保護シアリ
ロ、連絡者申込ナシ
3、獨國
連絡者派遣ヲ申込ミアリ
杜月笙トノ關係
イ、高等ノ工作ニ對シ全幅ノ支援ヲナシ護衞等ヲ附シアリ
ロ、汪ガ再聲明ヲナス頃態度ヲ明瞭ニス
汪今後ノ行動
現在ノ所ニ止マリ南京ニ新政府ヲ樹立セントスル時ニ軍艦ニテ堂々ト南京ニ乘リ込ム

435

昭和14年2月18日　在香港黃田總領事代理より有田外務大臣宛（電報）

高宗武の訪日および汪派の動靜等に関するＰＬ情報につき報告

香　港　2月18日後発
本　省　2月18日夜着

第二二〇號（極祕）
十七日ＰＬノ內話要領左ノ通リ[1]

一、高宗武ハ本十七日祕書一名從者一名同伴日本ニ向ヒタリ（絕對極祕ニ付セラレタシ）今日迄ノ活動ノ結果ヨリ見ルニ各方面トモ實際行動ニ移ルニハ現狀ノ儘ニテハ尻込ノ體ニテ且充分ナル輿論ノ關係付キ居ラス今一應日本側ノ進擊ニ依リ更ニ蔣ニ打擊ヲ與フル要アリ同時ニ我等ノ內面工作ヲ全般ニ亘リ一層强化シ行動ヲ具體化スル迄ニ進捗セシメ置キ日本側ノ進出ト相俟ツテ汪ヨリ更ニ意見ヲ表示スルコトモ考ヘ居ル次第ナルカ要スルニ我等ノ活動ハ日本側ノ意嚮及國內情勢ニ應スル工作ノ進展如何ニ依リ具體的方法ノ決定ヲ見ル次第ニテ高ノ日本行ハ右決定ニ重大ナル關係アリ今後ノ實際行動ニ付テ今ノ所時期ノ明示ハ困難ナリ何分汪ノ重慶脫出前後ヨリ急遽活動ヲ開始シタル譯ニテ今日トナリテハ準備ノ遲カリシヲ感シ居レリ

二、汪夫人ノ河內出發後蔣介石ハ個人祕書錢。某ヲ汪ノ下ニ派シ私書ヲ送リ來レルカ右ニハ目下軍事ニ於テハ日本軍ノ正面ニ、非占領地及後方ニ各々六十萬計百八十萬ノ大軍ヲ配備シ抵抗ヲスレハ三箇月以內ニハ日本軍ト對等ノ形勢ト爲シ得ヘク其[2]レ以後ニ至ラハ國際情勢ノ影響モ加ハリ益々有利ニ展開シ最後ノ勝利ヲ得ル見込ナル一方財政ニ於テハ英佛ニ於テ借款ヲ承諾シタルヲ以テ今後ノ財政問題モ一應ノ解決ヲ遂ケタル次第ナルニ付此ノ際抗戰ニ影響セサル樣汪ニ一應河內ヲ離レ歐洲ニ出向ハレタク出發期日確定セハ張群、何應欽、孔祥熙ノ中何レカ一名ヲ派遣スヘシトアリ右ニ對シ汪ハ國家ニ前途ノ不安アル限リ假令本日ニ河內ヲ立ツトモ明日ハ再ヒ戻リ來ルヘシトアツサリ拒否セリ

三、軍隊方面ニ關シテハ目下當地ニ療養中ナル第六十六軍副軍長兼第一五九師長譚邃トモ連結附キ譚ハ病氣回復シ前線ニ戻ラハ自己ノ部隊ヲ率ヒ汪ヲ擁護スヘシト約セリ又張達（第六十二軍長）ニ對シテハ姻戚ニ夫人ヲ派シ舊正ヲ利用シ個人的ニ折衝ヲ試ミル筈ニテ余漢謀系ノ部隊ニモ手ヲ染メタル譯ナリ又此ノ廣東方面ニハ往電第二一六號ノ三以外ニ元武漢警備司令葉蓬ヲ派遣シ居リ周佛海江蘇浙江方面ノ活動モ擔當ス

四、金融界ニ於テハ其ノ中心人物タル宋子文カ西安事變以來共產黨トハ離ルヘカラサル關係ニ在リ現ニ周恩來ト共ニ

國共ノ間ヲ斡旋シ居レル邵力子トモ充分連絡シ居ル事實ヲ知リテ宋ニ不安ヲ感シ居ルモノ相當多ク錢永銘ノ如キハ宋ヲ嫌ヒ過般汪ノ外遊說傳ハレル際ノ如キ頗ル悲觀シタル由ナリ唯彼等カ汪派ニ對スル懸念ハ蔣政權崩壞ノ場合國民政府ヨリ引受ケタル公債カ如何ニ取扱ハルルヤニ在リ故ニ彼等ニ對シテハ公債繼續返還ヲ條件ニ蔣ヨリ脫離セシムヘク策動シ居レリ

五、(3)重慶方面ノ消息ニ依レハ過般五中全會ニ際シ孫科ハ肅奸ヲ上提セントセルカ蔣介石カ之ヲ實施スルニ於テハ思想ト行動トノ區別附キ兼ヌル所ヨリ大勢ニ押サレ抗日ニ參加シ居ル中間性ノ分子迄馳ツテ抗戰反對ノ地位ニ立タシムル惧アリ殊ニ前線將(領)ニ及ホス影響重大ナリトシテ反對シタル由又馮玉祥ハ先般成都ノ軍官學校生徒ニ訓話セル際激烈ニ汪ヲ罵リタル處學生ハ一齊ニ床板ヲ踏ミ鳴ラシ馮ヲ揶揄シ演說ヲ不能ナラシメタル趣ナルカ前者ハ抗戰參加者カ必スシモ抗戰ヲ希望スルニアラサルコト後者ハ四川ノ人民カ平和ヲ希望シ居ル事實ヲ如實ニ示セルモノナリ

六、目下香港政廳ハ共產黨藍衣社ノ取締ニ大童ニシテ茲三日間ニ是等ノ機關七箇ヲ檢擧シタリ元來政廳側ハ右黨派ノ活動ヲ嫌ヒ居ルヲ以テ汪來香スルトモ別段危險ナシト思ハルルモ事前ニ政廳側ニ報告シ保護ヲ求メ置クヘキヤ着後ニ報告スルコト祕密保持上然ルヘキヤ措置ニ惑ヒ居レリ

上海ヘ轉電アリタシ

436

昭和14年2月21日　在上海三浦総領事より有田外務大臣宛（電報）

汪兆銘問題に関する維新政府の動向につき原田中支那派遣軍特務部長内話について

上　海　2月21日後発
本　省　2月21日夜着

第四二七號（極祕、館長符號扱）

森島參事官ヨリ

維新政府側ノ汪兆銘問題ニ對スル動向ニ關シ十九日來滬セル原田少將ノ內話ニ依レハ同政府ノ汪ニ對スル空氣ハ吳佩孚問題ノ場合ト稍異リ汪ノ今後ノ工作ニ協力ヲ惜マサル態度ニ出テントスル氣配アリ過日モ政府首腦部ハ原田ニ對シ

汪派ト聯絡ヲ執リテモ差支ナキヤト伺出テ原田ハ聯絡方差支ナキ旨返答シタル趣ナルカ今後適當ノ聯絡ヲ計リツツ具體的工作ニ取掛ルニ於テハ兩者ノ間ニ別段摩擦ヲ生スルカ如キコトナカルヘシト察セラルル趣ナリ

北京、南京ヘ轉電セリ

香港ヘ轉電アリタシ

437 昭和14年2月28日

訪日した高宗武との協議結果に関する田尻香港総領事と影佐陸軍省軍務課長との会談要旨

付記 昭和十四年二月二十八日付、作成者不明「影佐渡邊會談報告」

汪精衛一件　田尻總領事記

二月二十八日影佐大佐トノ會談要領左ノ通リ(書類ハ全部目ヲ通シ置キタリ)

一、高ノ齋セル第一案(日本カ蔣ヲ相手ニスルナラ汪ハ側面ヨリ援助シテ可ナリ)及第二案(南京ニ乘リ込ミ速カニ中央政府樹立ニ參加シテモ可ナリ但シ野ニアリテ之ヲヤリ度)ハ汪ニ對スル日本ノ信任ヲ試ス爲ニシテ彼等ノ眞意ハ飽ク迄汪ヲ立テテ貰ヒ度譯ナリ(第二案)右ハ二十六、七日高ト會見セル影佐モ同意見ニシテ高ニ對シテハ下ヌ手ヲ打ツ要ナキ旨ヲ言ヒ聞カセ置キタル由

二、高カ齋セル收獲ハ汪カ上海協定ヲ全面的ニ同意セル點ニアリ卽チ上海協定ニ於テハ軍事同盟等今後日支提携ノ具体案ハ一ツノ試案トシテ書キ物ニサレ居ル處汪ハ當時之ニ對スル意見ヲ留保シタルカ今回ハ全部之ヲ受入レタル由ニシテ之ニテ御前會議附屬書ノ各項ハ大体汪ノ肯定スル所ナルコト判明シタル譯ナリ

三、今後ノ工作案トシテハ

(1)改組國民黨ヲ中心トセル反戰救國會ヲ組織シ之ヲ使ツテ各種ノ政治經濟工作ノ下地ヲツクルコト(之ハ四月ニハ成立セシメ香港ヲ中心トシテ上海、「マニラ」、南洋ニ支部ヲツクラシムル案ナリ)

(2)汪カ再度聲明ヲ發シ自ラ救國ノ責任ヲ負フヘキ決意ヲ明カニスルコト(之モ出來レハ四月頃トス但シ右ニ先立チ日本側ノ積極的軍事行動例ヘハ南寧南昌長沙西安

ヘノ進撃等ヲ先方ハ期待シツツアリ此ノ點先方ノ最モ重視スル所ナリ）

(3)以上ノ準備進行ニ伴ヒ六、七月頃日支共同聲明ヲ發シ目標ヲ明カニスルコト

(4)南京ニ中央政府ヲ樹立スルコト（大体双十節ヲ豫定シ居リ且之ト共ニ臨時維新政府ハ解消スルコトヲ期待シ居ルモ之ハ影佐ハ同意シ兼ネル旨ヲ高ニ申聞ケタル由）

(5)二億圓位ノ補助ヲ得十六師ノ自己軍隊ヲツクルコト等ヲ考ヘ居リ一應ノ形式ハ整ヒ居ルモ自ラ軍事行動ヲ進メル丈ノ自信モ準備モナキ旨ヲ高ハ白狀シ居リタル由ニテ影佐ヨリハ余リ日本ノミニ頼ラサルコト肝要ナル旨ヲ懇々ト話シ置キタル由ナリ

四、以上先方案ニ對スル我方針案ハ近ク軍部ノ意見ヲ取纏メ當方ニ協議シ來ル筈

五、高ノ齋セル案ニハ我撤兵ノコトニハ全ク觸レ居ラス尚英米ニ對シテハ此ノ際余リイヂメツケ度無シトノ希望ヲ表明シ居リ（コノ點ハ香港ニ於テモ度々聞カサレタル所ナリ）

六、中央政府ハ全支ニ君臨スル譯ナルカ軍トシテハ已ムヲ得サレハ蒙疆ハ高度ノ自治トシ北支ノ特異性ヲ認メシメ結局中支以南ヲ一應汪等ノ中央政府ノ管轄トセシメル場合アルコトヲ想定シツツアリ汪ハ不取敢兩廣方面ニテ地盤ヲ開拓セシムル軍ノ方針ニハ變更ナシ

（付記）

影佐渡邊會談報告

	日本側提案	支那側提案
方針	第三案ヲ以テ時局收拾ノ基準工作トス 帝國ハ汪及其同志ノ計画ニ滿腔ノ贊意ヲ表シ爲シ得ル限リノ努力ヲ惜シマス 但一般ノ情勢ハ時日ノ遷延ヲ不利トスルヲ以テ諸般ノ準備ヲ促進シ成ル可ク速ニ所期ノ目的ヲ達成スルニ努ム	良シ
	本同盟會ノ使命重大ナルニ鑑ミ其成立ヲ促進スルト共ニ左記工作ヲ鞏化促進シ新中央政府樹立ヲ準備ス 1.和平反共氣運ノ釀成 2.重慶政府内部ヨリ同志ノ獲得 3.軍事再建設ニ關スル準備 （日本側トシテモ支那側ノ意向ヲ尚的確ニ承知檢討ノ要アリ） 4.經濟再建設 イ、浙江財閥及華僑獲得	良シ
備考	反共救國同盟會ノ結成 日本側ノ考案左ノ如シ（參考ノ爲） 一、提唱者　改組（再生）國民黨 參加者 反共救國ヲ標榜スル凡ユル團体、個人、臨時、維新兩政府等ノ要人ヲモ參加セシム 二、結成ノ時機〈秘密裡　三月？ 表面化　四月下旬 三、配置　本部　香港（或ハ上海） 支部　上海、漢口、廣東、「マニラ」「ハノイ」等	1.改組國民黨ハ單ニ國民黨ナル名稱ニス 但中國側ニ於テ自發的ニテ國民黨カ國共合作以前ノ精神且中日兩民族團結ヲ志シタル時代ノ精神ニ返ルコトヲ宣言ス 2.結成ノ時期ハ成可ク早クスルコトニ努ムルモ三月トハ明確ニハ申シ難シ 3.配置　本部　香港（或ハ上海） 支部　「シンガポール」「サイゴン」ヲ加フ
	日本軍ノ作戰ハ統率ノ大權ニ屬シ政略ノ爲之ヲ左右スルヲ得ス 又工作進捗ノ爲ノ交換條件タルヲ得ス然レ共	一、贊成 中國側ハ作戰ヲ政略ノ爲ニ左右シ又ハ工作進捗ノ爲ノ交換條件タラシムルガ如キコト

重慶政府ノ逆宣傳ヲ封スル爲成可ク支那側ノ
希望ニ添フコトニ努メ支那側ハ自ラノ力ヲ以
テ謀略ヲ促進シ兩々相俟ツテ其效果ヲ至大ナ
ラシムルニ努ム
備考
日本側ハ支那側ノ希望ヲ更ニ的確ニ承知ノ
上檢討ス
之カ爲兩軍事當局ニ依ル會議ノ開催ヲモ考
慮ス

一、再聲明
イ、時機　支那側內部工作ノ進展殊ニ龍雲蹶
起ノ自信ヲ得タル時機ヲ以テ基準
トスルヤ日本軍作戰效果ノ具現ヲ
基準トスルヤ更ニ研究ス
概ネ三月末ヨリ四月中旬ノ間ト予
定ス
ロ、內容　汪ハ時局收拾及和平實現ノ事ニ當
ル汪カ蔣ニ向ヒ政治的絕緣ヲ聲明
スルコト
二、支那側ノ通電
龍雲ノ蹶起ヲ動機トシ西南諸將其他爲シ得
レハ四川及北支ノ諸實力者ヲ參加セシメ擁
汪ノ通電ヲ發出セシム
日支兩方面相協力シテ李白ヲ本陣營ニ獲得
スルコトハ特ニ肝要ナリ
四月末頃ト予期ス
三、日支共同宣言
イ、時機　七月頃ト予定シ汪ヲ以テ中央政府
ノ首班タラシムルノ機運ヲ十分ニ
釀成シ自然ノ推移カ共同宣言ヲ生
シタルカ如ク之ヲ導キ汪一派ノ大
義名分ヲ立テシムル如ク努ム
ロ、內容　十二月二十二日及二十九日聲明ノ
再確認
ハ、共同宣言ノ發出ハ日支双方ノ責任者會見

ヲ志シ居ラス
二、會議ハ渡邊歸國早々之ヲ同志ニ取次キ三月
中ニハ開ク予定ニシ度シ
且右會議ハ軍事ニ關スル意見交換ト云フ程
度ニ了解シ度シ
但實質上ノ委員ハ勿論出スコトトシ中國側
ハ葉蓬又ハ陳素農ノ內一名其他隨行者

時機ノ基準ニ關シテハ中國側ハ兩方ナリ

內容ハ中國側ヨリ提出シタル原文ノ如クニ願
ヒ度シ

ノ上之ヲ行フ
細部ハ別ニ研究ス

四、日支祕密協約ノ假締結
共同宣言發出ト前後シテ軍事同盟第三國關係等ヲ內容トスル日支祕密軍事同盟ヲ假締結
但英、米、佛等ニ對シテハ過度ニ急速ニ排撃スルコトナシ
祕密協定ハ政府成立後ニ行ヒ度シ
夫レ以前ニ急速ニ行フ場合ハ祕密ノ漏レル虞アリ從テ中國側同志間ニ疑惑ヲ釀成セシムル虞アリ
且右祕密協定中ノ軍事同盟ハ對ソ軍事同盟ノミヲ希望ス
（汪氏個人ハ對ソ軍事同盟ニ關シテハ明確ナル態度ヲ有ス）
其他ノ諸外國ニ對スル軍事同盟ヲ日本側ニ於テ餘リ急速ニ希望セラルルニ於テハ汪氏初メ同志カ右ハ日本カ中國ト列國トヲ斷シ日本ノミニ於テ中國ヲ把握セントスルニアラスヤトノ疑惑ヲ生スル虞アリ
但來ルヘキ日支間ノ和平カ單ニ厚利的ナル和平ニアラスシテ相互ニ東洋民族トシテノ自覺ニ立脚シ日支兩民族永遠ノ提携ヲ理想トスル道義的精神ヨリ出發セル和平タルコトヲ證センカ爲ニ必要トアラハ渡邊個人トシテハ對英ノ措置ヲ次ノ如クニ取極メテハ如何カト思慮ス
卽チ支那カ獨立國トシテ實力ヲ充分得タル上ハ日本ト提携シテ英國ノ帝國主義的侵略ヲ排除スルハ異存ナシ
但之ヲ何年以內ニ實現スヘシトノ取極ハ困難トス而シテ右ハ前述ノ如ク祕密ノ早ク漏ルルハ事ヲ誤解セシムル恐アルヲ以テ對英措置ニ關スル限リ兩國代表（例ヘハ近衛、汪）二人間ノ申合トシ度シ
良シ

五、雲南、廣西、廣東、福建ニ地方政府樹立
中央政府タルノ前提トシテ先ツ地方政府ヲ樹立スルコトハ工作進展ノ地盤ヲ構成スルニ必要ナリト思料ス
良シ

一、新中央政府籌備委員會ノ樹立

軍事計画	一、軍事再建（反共救國同盟結成期ヨリ逐次之ヲ工作ス） イ、中央軍ノ獲得 ロ、雜軍及傍系軍ノ懐柔 ハ、新軍ノ編成 ニ、以上諸軍ノ改編、整備、訓練 ホ、日本側ニ於テ尚的確ニ支那側ノ意向ヲ承知シ檢討ノ要アリ ヘ、前項各軍ハ日本軍占據地域外ノ治安維持ニ任ス ト、漸次日本軍ニ交リ警備ニ任ス
樹立中央政府ノ	イ、時機 八月頃ト予定ス ロ、場所 情況ニ依ル ハ、主義 東亞協同体ノ理念ニ基ク修正三民主義ヲ適當ナリト考フルモ主義政綱等ハ支那側ニ於テ考案研究ヲ望ム ニ、既成政權ノ措置 元ヨリ支那ノ内政問題ナルモ既成政權ハ日本側トシテモ之ヲ無視シ難キヲ以テ暫ク現在ノ儘之ヲ殘置シ參議會員會ノ傘下ニ抱擁ス ホ、參議會員會ハ當事者トシテ日支國交調整ヲ行フ ヘ、十月二十日及二十九日聲明ヲ基礎トス ト、新中央政府ノ組織 參議會ヲ中央政府ニ強化スルノ時機ハ一ニ狀況ニ依ル 既成政權ノ措置ニ關シテハ別ニ研究ス 第三國ノ關係ハ獨伊ヲ優先トシ英佛ト ノ國交ヲモ調整ス
良シ	中央政府成立後之ヲ行フ 良シ

438

昭和14年3月15日　在香港黄田総領事代理より有田外務大臣宛（電報）

救国反共同盟の結成など汪派の工作状況に関するＰＬ情報報告

香　港　3月15日後発
本　省　3月15日夜着

第三一八號（極祕）

十四日Ｐ・Ｌハ大要左ノ如ク内話セルカ其ノ際汪一派ハ今日ニ至ルモ未タ局面ノ展開ヲ見ス工作ノ進捗モ捗々シカラサルニ多少焦慮シ居ルカ如キ印象ヲ受ケタリ(1)

一、高宗武ハ十六日當地着ノ筈ナルカ汪精衛ヨリ高ニ對シ出來得レハ十八日迄ニ河内ニ赴キ渡日後ノ狀況報告方電報越シ居レリ

二、今般閻錫山ヨリ河内ノ汪ノ許ニ使者ノ派遣アリ閻ハ此ノ一年來具ニ第八路軍ニ苦シメラレ其ノ怨骨髄ニ撤（徹カ）シ居レハ汪ニ於テ如何ナル擧ニ出ツルモ全然贊成支持スヘキ旨表明セリ

三、(2)今回同志ヲ以テ中國々民黨救國反共同盟ヲ結成セルカ右ニハ理事長（汪ニテ兼任）ノ下ニ八理事ヲ置キ現在ノ處陳公博、周佛海ニ職務ヲ代行セシメ居ルモ行クヽヽハ局面ノ展開ニ伴ヒ雲南（龍雲）四川一名閻錫山等ノ實力者ヲ之ニ充ツル筈ニテ何應欽モ考慮ニ加ヘラレ居ルモ何ノ重慶脫出ハ困難ト思料セラル

右同盟會ハ當分祕密組織トシテ公開セス各省各地ニ同志ヲ派遣シタク廣ク黨員ヲ吸收スル計畫ナリ

四、既報薛岳ハ堅キ決意ヲ有シ居ルカ如キモ何分環境ニ制セラルル爲機會ヲ窺ヒ居ル處薛ニシテ事ヲ擧クルニ於テハ張發奎トシテモ反共ノ立場上少クモ中立態度ヲ持スルモノト觀測サレ旁目下薛ニ早目ニ實行方督促中ナリ

一(3)方汪ハ過般河内ヨリ歸來セル陶希聖ニ對シ薛ノ旗擧遲ルルニ於テハ之ヲ當テニセス汪ハ一先ツ上海ニ赴キ北京、南京、其ノ他ノ各新政權ト南京ニ統一政府ヲ結成スル折衝ヲ行ヒ人物組織等ニ關スル打合等纏ラハ直ニ之ヲ實現シ同地ニ日本大使館ノ開館ヲ請ヒ其ノ他ノ國ニモ同樣ノ要請ヲ爲シ（獨伊ハ問題ナカルヘキモ英米佛ニ於テ拒否スルニ於テハ別ニ手段ヲ講ス）同時ニ之迄ニ發シタル汪ノ通電ノ趣旨ヲ骨子トシテ東亞ノ和平維持ニ關スル日支ノ共同宣言ヲ發シ廣ク全國民ニ呼掛ケタキ意嚮ナルモ右

ニ付同志ニ於テモ充分考慮アリタシト傳言シ來レリ素ヨリ汪ニ於テ一區域ナリトモ獲得シ得ルニ於テハ各種ノ工作ヲ頗ル有利ニ展開シ得ヘキモ此ノ爲徒ラニ機會ヲ待ツモ涯ナク龍雲四川ノ將領等ニ於テモ只管蹶起ノ機會ヲ待チ詫ヒ居リ旁一日モ早ク何トカシテ汪ノ起テルコトヲ實證スルノ必要アリ

吾(4)汪ハ上海行ニ際シテモ必ス一先ツ香港ニ落着ク筈ナリ既ニ其ノ準備モ出來居レルハ既報ノ通リナルカ最近當地ニ於テハ共產黨ノ活動活潑ニシテ種々ノ陰謀行ハレ香港政廳ニ於テモ既ニ七箇所ノ機關ニ手入ヲ爲シ九日ニハ第八路軍辦事處迄捜査シタル程ナルモ政廳側カ汪ニ對シ果シテ充分ナル保護警衞ヲ行ヒ得ルヤ未タ充分ニ見極メ附カス且ハ目下奥地通信カ四川雲南ノ將領ノ手ヲ經極ク密ニ行ハレ居ル事實モアリ今ノ處河內居住ヲ便利トシ居レリ上海ヘ轉電アリタシ

439

昭和14年3月21日　在ハノイ鈴木総領事より有田外務大臣宛（電報）

汪兆銘襲撃事件の発生により曾仲鳴重傷について

ハノイ　3月21日後発
本　省　3月21日夜着

第六三號（至急）

本二十一日午前三時頃四名ノ支那暴漢汪精衞宅ニ闖入シ來リ十五發位發砲狙撃シタルカ右犯人三名ハ直ニ佛官憲側ニ捕繩セラレ一名目下捜査中ニシテ汪ハ被害ナキモ曾仲鳴夫妻重傷、其ノ他ニモ負傷者アル由不取敢西貢ヘ暗送セリ

佛、英、米、北京、滿、香港、新嘉坡、臺灣外務部長ヘ轉電アリタシ

北京ヨリ在支各總領事ヘ轉電アリタシ

440

昭和14年3月22日　在ハノイ鈴木総領事より有田外務大臣宛（電報）

曾仲鳴の死亡および犯人取調べに関する情報について

ハノイ　3月22日後発
本　省　3月23日前着

第六四號（至急）

往電第六三號ニ關シ
曾ハ廿一日午後二時頃死亡夫人ハ股ニ負傷シ居レリ同犯人四名共捕縛セラレ取調ノ結果二名ハ香港ヨリ他ノ二名ハ昆明ヨリ何レモ當地通過旅券ニ依リ潜入セルモノナルコト判明セリ尚汪ハ東京州內何レノ地ニカ隱レ居レル由警察側ヨリ聞込ノ儘
前電ノ通リ轉電アリタシ
西貢へ暗送セリ

441 昭和14年3月23日 在香港黃田總領事代理より有田外務大臣宛(電報)

宋美齡のハノイ訪問等に関する李思浩内話について

香 港 3月23日後発
本 省 3月23日夜着

第三六〇號(極祕)
二十三日李思浩ハ八谷ニ對シ宋美齡ハ汪兆銘ノ日本側トノ聯絡漸ク進捗ノ氣配見エタル爲之カ手當ノ爲當地ヨリ宋子文同伴極祕裡ニ河內ニ飛ヒタルカ汪ハ到底動カサレサルヘク一方高宗武ハ東京ニ於テ汪ト四川雲南及第四戰區將領等トノ脈絡ヲモノニスル爲日本軍ノ各線ニ亘ル進擊竝ニ政治的進出方ニ付諒解ヲ得タル趣ナル處汪ノ支那軍抱込ハ右ニ依リ七分方成功ノ見込アリト觀測ス(廣西ハ到底望ナシ)曾仲鳴ハ藍衣社ノ手ニ懸リタルカ汪及其ノ一派ニ對シ斯ル手段ヲ用フルコトハ蔣ノ意圖トモ思ヘス贊成シ得ス(李ハ憤慨ス)又歐洲ノ動キニ依リ最近重慶ニ和平ノ氣配動ケリトノ說ハ當ラス尚孔一派ハ早クヨリ和平策動ノ爲重慶香港又ハ上海間ニ人ヲ往復セシメツツアルモ孔令侃ノ重慶行ハ單ナル銀行事務ノ打合ニ過キス上海ノ犯行ハ大シタモノニアラスト內話セリ
北京、上海へ轉電アリタシ

442 昭和14年3月29日 在香港田尻總領事より有田外務大臣宛(電報)

曾仲鳴事件発生により上海への脱出を汪兆銘希望について

香 港 3月29日後発
本 省 3月30日前着

第三七八號（極祕、館長符號扱）
河內宛貴電第二八號（本官宛第二七九號）ニ關シ
高宗武ハ十八日陳璧君、曾仲鳴夫人ト共ニ河內ニ赴ク豫定ナリシニ拘ラス同行ヲ止メ當地ニ止リタリ事件起ルヤ汪ノ意見トシテ河內（香港モ同樣ナリト言フ）ハ危險ニ付上海ニ赴キタキ旨高橋（編注）ニ對シ申出アリ右ニ關シ軍中央部ハ一時臺灣ヘ避難然ルヘシトノ意嚮ナルカ前記申出ハ果シテ汪ノ眞意ナリヤ疑ハシキ節アリ更ニ內密取調中
尙ＰＬニ依レハ貴電情報ハ事實ニアラス明三十日當地ヨリ河內ニ聯絡ニ赴ク者アル由

編注　「高橋」は「一田次郎」を意味する符牒。

443
昭和14年3月31日　在香港田尻總領事より有田外務大臣宛（電報）

汪兆銘は四月下旬に香港来訪予定との情報について

香　港　3月31日後発
本　省　3月31日夜着

第三八九號（大至急、極祕、館長符號扱）
（欄外記入）往電第三七八號ニ關シ
ＰＬノ內話ニ依レハ汪兆銘ハ曾仲鳴事件後祕カニ居所ヲ移轉シタルモ河內以外ニ避難スルカ如キコトナシ尤モ四月二十日前後遲クモ月末迄ニハ來香ノ豫定ニテ之カ爲更ニ一戶ヲ借入レ居所ニ充テ居レリ（曩ニ旣ニ一戶借入濟）尙三、四日前汪ヨリ香港行ハ飽迄祕密ニ附シ度ク佛國側ハ手當ヲ爲シ得ルモ香港ニ於テハ飛行機ヲ利用セハ英、支人ヨリ感付カレ政廳ノ保護監視嚴重トナリ却テ行動ヲ阻害サルル惧アルニ付水路ニ依ルノ外ナキヲ以テ高宗武及ＰＬニ二人ニテ如何ナル便船ニ依ルコト然ルヘキヤ至急安全ノ方法ヲ考究セヨト申越シタル趣ナリ
本件ニ付同盟大矢（屋カ）ノ暗號電報參照アリタク又本電一日未明羽田發ノ影佐ニ內示アリタシ
上海ヘ轉電アリタシ

（欄外記入）
四月一日午后矢野領事影佐ト連絡スルコトトナレリ